京城日報
二六〇三号 夕刊
年中無休刊
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

◎佛國特使一行著米

國務省公報＝華府會議に列席すべき佛國特使一行は無事米國に到着せり（紐育電報）

◎出兵よりも先づ食糧

英國外相の緊急使命

英國外相バルフオア氏の使命は各方面の問題に關し居るが其の中最緊急的性質を有し居るものは食物供給及之が輸送に關する件なり一行中の隨員は非公式に語つて曰く『目下協商國の最大問題にして且其の援助を米國に仰がざる可らざるものは食物の供なり英國は未だ食物の缺乏を實地に感じ居る程には非ざるも佛、伊兩國は徐々窮乏の域に進みつゝあり協商國の兵員は猶充分なれば目下の所米國に出兵を求むるの必要を見ざるも食物問題は直ちに是を必要とす』云々と（紐育電報）

◎露國潜艇六隻註文

露國政府は今回シヤートル船渠會社と潜航艇六隻の建造を註文契約せり（倫敦電報）

◎獨軍需品工場休場

アムステルダム來電―獨逸金屬組合の測算する所に依れば十六日伯林に於て同盟罷業を爲せし職工の數は殆んど二十五萬人にして是が爲め三百の軍需品工場は休業の已むなきに至れり（倫敦電報）

◎支那軍事會議開會

段內閣擁護に決せん

二十五日北京にて第一回軍事會議開かれ各省督軍及び其の代表者四十餘名出席したり會議の結果段內閣を擁護するに歸著するならんも若し右にして通過せずんば段總理は辭職すべしと觀測さる軍隊解散及び軍費節減問題は實行困難なるのみならず張勳氏を上京出席せしむるにあらざれば不可なりとし取敢ず其の上京を督促する事とせり（北京特電）

◎支那外交方針決定

北京政府は二十五日軍事會議の結果外交方針を決定せり（北京電報）

◎政友會臨時大會

政友會にては來る六月二十日を以て臨時大會を開く可し（東京電報）

◎無所屬團結束

無所屬團六十九名は結束團體を作り將に來らんとする臨時議會の大勢力たらんことを期しつゝあり（東京電報）

◎交代兵幹部 釜著

滿洲守備交替步兵第十三旅團司令部及び第二十五聯隊將校以下一千五百名は廿六日陸軍御用船日運丸にて釜山上陸の豫定なり（釜山特電）

◎御慰問使動靜

入京中なる內山侍從武官長は二十六日午前は九時三十分より步兵聯隊、衛戍病院及び砲兵隊を巡視し午後は一時三十分より騎兵中隊兵器支廠陸軍倉庫を巡視夫々聖旨を傳達したるが二十七日午前九時より憲兵隊司令部京城憲兵隊本部朝鮮隊を巡視の豫定なり

◎總督一行動靜

北鮮地方巡察中なる長谷川總督一行は二十六日早朝咸興出發午前十時五分西湖津より光濟丸にて海路淸津に向へる旨其の筋に電報あり、二十七日午前淸津發鏡城に著し同夜は同地に宿泊の豫定なり

◎總督邸晩餐會

長谷川總督は二十六日午後六時より入京中なる內山侍從武官長を主賓とし軍司令官、師團長等を官邸に招待晩餐會を開く總督府側よりは山縣政務總監以下各部長官局長所屬官署の長、武官、副官、秘書官、李王職よりは閔長官、國分次官等參列す

◎總監法主招待

山縣政務總監は二十七日午前十一時より大谷光演師をはじめ南條、村上兩博士、沼、沼波兩錄事並に大幸輪番等を總監官邸に招待午餐會を開催の筈なるが總督府側よりは政務總監以下官房主要職員學務局長、深田內務部第一課長遠藤秘書官等出席す可し

◎軍司令官張宴

秋山軍司令官は二十七日午後六時三十分內山侍從武官長、大谷光演師並に南條村上兩博士大幸輪番等を官邸に請待晩餐會を催すこと〻なれり當日は前記の外總督府よりは山縣政務總監以下各部長官局長所屬官署の長、武官、副官、秘書官、李王職よりは長官次官、師團よりは師團長以下主なる幕僚等出席す可く軍に在りても各部長副官等多數參列の筈なり

◎李王御禮傳達

李王並に李太王兩殿下は二十六日勅使者を總督府に派し　聖上陛下より侍從武官長をして賜はりたる優渥なる御沙汰に對し恐懼に堪へざる旨傳奏方を申し出でられたるより山縣政務總監は總督代理として直ちに宮內大臣を經て其の旨上奏したり

◎中村氏渡米期

過般歐米に出張を命ぜられたる京城覆審法院檢事長中村竹藏氏は五月二十三四日の頃橫濱解纜渡米の途に就く豫定なるが氏は米國より英國に渡り歐洲大陸を經由歸朝す可く出張期間は六箇月間なり

◎保科子出張

總督府技師保科正昭子爵は地質調査の爲め二十日附を以て全北群山府沃溝郡並に全南木浦府靈光郡務安郡珍島郡濟州島に出張を命ぜられたり近く出張を見る可し

◎牧山代議士動靜

今回衆議院議員に當選せる朝鮮公論社長牧山耕藏氏は二十六日朝長崎より壹岐に著二十九日頃同地發歸京の豫定也と

◎丹羽氏渡米期

既報の如く渡米すべき京城基督教青年會幹事丹羽淸次郎氏は五月一日午前八時三十分南大門驛發列車にて出發釜山より八日橫濱發の郵船因幡丸に乘船の豫定なるが青年會員は同氏の爲め來る廿九日午後二時より南大門通りフアミリーホテルに於て送別會を催すべしと云ふ

◎韓專務慰勞宴

子爵趙重應氏商議副會頭趙鎭泰氏等の主催に係る朝鮮側有志の漢城銀行專務韓相龍同副支配人韓翼教本願寺經濟部長中島司の三氏招待慰勞宴は廿五日午後七時三十分明月館に開催されたるが初め趙子爵の開會並に慰勞の辭あり次いで同氏內鮮語の南北支那視察談ありたるが頗る一同の感興を惹けり會者は朝鮮貴族實業家の內鮮人官民八十餘名にて同十時盛會裡に散會せり

◎鮮銀總裁訓示

支店長會議に於て（下）

▲重役の配置　近來支店出張所の增設と共に一般に各店間の聯絡に付一層周密の注意を要するの時期となれり支店出張所長たる諸君は常に其の擔當する各店出張所の利益を圖ると同時に廣く全般の利害を考量し損益相補ひ有無相通し各店共同の步調を以て業務を進められんことを請ふ而して是等聯絡統一を圖るの便宜上本店には三島理事を止め木村理事は多く東京に駐在して內地の關係を處理し大田理事は當分大連に駐在して滿洲全般の事を見ることゝせり翼くは本支店相互一絲亂れざるの共同動作に出でられんことを

▲檢査と調査　尚一言すべきは檢査及び調査の事なり近者當行營業區域の著しく擴大せらるゝと同時に各店內事務の整理は益々急切を感ぜしむるあるを以て檢査事務に付ては益々勵行を期せんとす各支店に於ても亦常に行務の整理に注意し檢査員の臨檢毎に喜んで總ての檢査に應じ常に怡然として和氣藹々の下に檢査を了し得る樣平素の注意を怠らざらんことを望む又調査の事は上述ぶる所の各般の目的を達するに付其の基礎を爲すべきものなるを以て調査の機關は必要に應じて將來益々擴張することに躊躇せず唯調査機關の事業たるや常に當行實際の業務を離れず直接間接に業務上に利益する所あらしめざるべからず從て諸君の常に之を利用することに務めらるゝと否とは最も望む所なり蓋し調査の有効なると否とは之を用ふるの法を得ると否とに在て存す諸君は常に當行の調査機關に於て如何なる事を爲しつゝあるやを知り必要に應じて可成之を活用せられ度し

▲行務整理と勞力　今や當行は業務擴張の最盛期に在り前期中支店出張所を開始すること三、今期に入り又既に二箇所の支店出張所を開くの計畫成り一は既に實行を了し一は準備全く成り近く開設を見んとす尚引續き近き將來に於て二三の支店新設は蓋し已むを得ざるの形勢なり是に於て本支店を通じて到る處人員不足を訴ふるに至るは當然の勢にして各店何れも事務の繁激を加へしこと實に想像の外なるが如し是の如き缺陷に向ては漸次補充の方法を立つるに務むるは勿論にして本店に於ても銳意行員の養成に盡しつゝあり然れども各行員をして眞の熟達を得せしむるは實際の事務に當らしむるに非ざれば能はざる所なるを以て本店の所謂養成は僅に事務の一端を教ふるに過ぎず故に各支店出張所に於ても新に配布せられたる行員に對しては平素放任の意味を以て適當の指導を與へられんことを望む唯茲に一言し度きは事務の弛廢は人の少きに生ぜずして却て人の多きに過ぐるに出づるを常とし冗員多き所には必ず懈怠を生ず當行幸に新進氣銳の士に富む行員諸子に望む所は幹部諸君は勿論上下を通じて各其の全力を其の任務に傾注し餘蘊なく各自所謂其の能率を極度に發揮し比較的少數を以て行務を處理するの覺悟あらんこと是なり而して常に適材を適所に配して各其の能を盡すことを得せしむるは主として吾々の責任にして而も最も緊要とする所なれば諸君に於ても中樞此の點に注意し吾々の及ばざる所を補はれんことを切望す

▲戰後の用意　終りに臨み一言せんとする所は比年當行の利益益々增進し遂に前期の如き利益を得るに至りたるは畢竟諸君勉勵の結果にして小官の深く感謝する所なりと雖一は亦時運の然らしむるものなしとせず特に歐洲戰亂の終局の後の需要品の杜絕生産及び分配狀態の大異動各國財政の始末等は多くは經濟界の沈衰を來たさしむる原因を爲すものにして一たび此の場合に想到するときは吾人の最も苦戰奮鬪を要する時期は尙ほ此の數年後にあるを覺ふ今より諸君の覺悟を請ふ所なり

▲增資の結果　當行茲に資本の增加を實行せしに其の成績意外に良好にして三萬株の公衆募集に依て約九十萬圓の割增を得て新に積立金とすることゝなれり是の如き成績を得たるは社會が當行從來の發展を見て將來に望を囑するに由るものにして當事者の株主に對する責任一層重大を加へたるものと謂はざるべからず是亦向後一層諸君の勉勵を望む所以なり

最後に過る總會に於て理事一名の補缺選擧を行ひたるに創立以來當行に從事せられ諸君の先輩として行員の主席を占められたる大田三郎氏を新に理事として迎ふることを得たるは諸君と共に最も喜ぶ所なり諸君が滿腔の同情と敬意とを以て同理事を援助せられんことは小官の信じて疑はざる所なり（完）

◎鮮銀店長會議（第二日）

朝鮮銀行支店出張所長會議第二日は前日に引續き二十六日午前十時より同行會議室に開催、總裁以下各重役出席前日の如く直ちに日程に入り當日は滿洲各地支店出張所長の經濟狀況報告ありて午後五時閉會したり

▲支店長會議諮問事項

一、各地農工商、鑛業及水產其他一般產業の現況及將來に對する意見
二、既往一箇年間に於ける各地貿易出入貨物の消長及通貨の狀況
三、既往一箇年間に於ける各地運輸交通機關の變更及地方經濟に及ぼしたる影響
四、歐洲大戰終了の後經濟上に及ぼす影響及之に對する當行營業方針に關する意見
五、對支及對露貿易進展上當行の採るべき方針に關する意見
六、各地貸出方針及金利に關する意見
七、各店相互間業務連絡に關する希望及改善意見
八、內規其他諸規則改正に關する意見
九、銀行前途に關する意見及其下諸の場合に付ての方策

因に支店長會議出席者及び其の旅館所左の如し

東京支店長代理	大田三郎	朝鮮ホテル
大阪支店長	藤巻太一	京城ホテル
神戸出張所長	岩井生治	同
平壤支店長	宮崎鐵平	同
仁川支店長	澤村甚之助	不知火旅館
元山支店長	龜島登治	浦尾旅館
大邱支店長	久我清廣	木村理事舍宅
釜山支店長	中野武雄	不知火旅館
鎭南浦支店長	武安福男	中部洞舍宅
群山支店長	宗像珠夫	旭町二丁目舍宅
木浦支店長	泉末治	井上正賢方
馬山出張所長	上田直秀	山本旅館
清津出張所長	菅井永助	同
新義州出張所長	伊藤信郎	同
會寧出張所長	西山淳久平	不知火旅館
新義州出張所長	今井八十次	陸官舍西田判事方
大連支店長	橋本萬之介	不知火旅館

安東縣支店長	松原純一	不知火旅館
奉天支店長	小西春雄	同
長春支店長	安田弘	同
營口支店長	國原健	旭町二丁目朝鮮銀行舍宅
四平街出張所長	後藤發丸	山本旅館
開原出張所長	鈴木源之助	同
哈爾賓支店長	阿部讓	不知火旅館
松田銀行部長	木原小平	同
前鎭南浦支店長	久保田積藏	同
調査局東京支局長	山本理一	京城ホテル
上海出張員	高橋武夫	木村理事舍宅
前釜山支店長	石井光雄	

◎機業功勞者表彰

京城府長沙洞金德昌氏は京城機業界に功勞少からず斯業今日の發達を見たるは氏に負ふ所多大なるものの有るを以つて當局にては二十七日商業會議所樓上に於て之れが表彰式を擧行し銀時計一個を授與する筈

◎火葬場開始

京城府衞生課にて計畫中なりし新倉里火葬場は二十六日より開始の運に至れりと

◎人蔘耕作者賞品授與

度支部專賣局開城出張所にては來る五月一日午後一時より人蔘耕作者に對する賞品授與式を擧行すべし

◎農債償還

株式會社平安農工銀行にては本月三十日在鮮各農工銀行本支店に於て同行隆熙二年十二月二十五日發行農工債券甲號十萬圓の仕拂償還を爲す筈なり

◎穀物商決議 通牒

去る三月十、十一日兩日仁川に於て開かれたる全鮮穀物商大會に於て決議したる對內地取引に關する件は同大會代表者奥田貞次郎氏の名に依り左の通り鮮內各地同業組合及び同業者に通知を發したり

大正六年三月十、十一の兩日朝鮮仁川港に開催したる朝鮮穀物貿易商大會に於て對內地取引に關し左の通り決定す

一、本船渡及び汽車乘約定値段による場合賣主の責任は荷物引換證の交付を受けたる時を以て終了するものとし本船又は貨車積込迄の費用は一切賣主の負擔とす

二、本船神戸及汽車渡着約定値段による場合賣主の責任は本船が仕向地に入港の時又は貨車が仕向地驛に到著の時を以て終了するものとす

船積は本船の運賃、埠頭日步及び仕向地解船（解賃を除く）迄の海上保險料は賣主の負擔とす

汽車積は貨車の運賃及び運送保險料は賣主の負擔とし本船又は汽車到著以後の費用は總て買主の負擔とす

三、轉移出稅は總て賣主の負擔とし轉移入稅は買主の負擔とす但稅關設置なき土地より輸移出の場合に於ける輸移出稅は此限にあらず

四、買附注文に對する場合買附注文により買附承諾の通知を發したる時を以て契約は成立し其後に於て不可抗力の爲め途中事故延著するか又は相場の低落あるも賣主に於て其損害に對し辨償又は値引をなさざるものとす

右は今般全鮮の商習慣として決定致候に付御通知申上候今後該取引上決定通り實行致度此段得貴意候

南北滿洲

南北滿洲視察團中より　西海生

朝鮮銀行大連支店

▲尼ケ浦に於ける鮮銀大連支店の觀察團歡迎振進んで、大田鮮銀理事は先づ斯う云つた「今回鮮銀大連支店の故郷たる朝鮮の紳士諸君を迎へたのは此上もなき喜びであり光榮」と吾等は吾等の故郷より遙に出店した鮮銀支店の隆盛な模樣を見るべく何は措いても大山通りの一角に聳ゆる

▼大田理事の重役振りは體軀偉大擧措悠容、堂々たるものがあるらしい、階上の滿洲總支配人室に上ると支店新築設計圖が壁に張つてある、大連の中心點、中央の大廣場に面し民政署と通信管理局に挾まれ、七百坪の土地に約四十萬圓の巨費を投じ三階の雄姿を現はすらしく見ゆる、然し理事は『まだ確定はしてない、斯の樣に極まれば屋上でテニスは樂に出來るやうだ』と云つて煙りをプウと吹く

▼男は小さいが敏捷精悍ドンナ商戰場裡でも負けをとるまいと見られるのは橋本大連支店長だ、クルクルと身體を獨樂の如く廻して劇務を鞅掌し、且つ接踵來訪の人に應酬してゐる、小粒でもピリリと辛さうな勝氣の快男子だ、尤も地上から四尺何寸しかない頭に二尺もある絹帽を被つて、そこにもこゝにも押し出すのは滑稽にもあると惡口を云つてゐる人もあつた、然し同氏は鮮銀滿洲發展の策源地に於ける行務盛衰の責めを双肩に荷つてゐるから、四六時中油斷はならぬが、快心ではあらう

▼滿洲各地に於ける朝鮮銀行は朝鮮に於ける朝鮮銀行とは大分立場が違ふ從つて行員も骨が折れる、第一朝鮮の鮮銀は既に歷史も古いし、鬱然たる地盤と勢力を有してゐるけれど、滿洲では進出後尙ほ三四年の時日しか經過せぬ、其の勢力圈の拓開には少なからぬ困難が伴ふ、第二朝鮮では中樞金融機關として、他の銀行を遙かに見下してゐるが、滿洲では正金と云ふ歷史の古い又た銀行として納まつてはゐられない、隨分競爭も烈しいのである、それに滿洲各地殊に大連の如きは朝鮮と違つて內地有力會社商店の出店が少くない、それらの店は背後に實力を有してゐるため敢て銀行の鼻息を窺はぬ銀行の貸出手心の如き朝鮮とは大分違ふ

▼更に鮮銀は滿洲に進出以來金劵の流通擴大に隨分骨を折つてゐる、然し滿洲の對支那人取引は多く未だ銀建である、然るに鮮銀は銀劵の發行をやつてゐない、之れは銀劵發行權を有する正金に比し支那人の取引關係を附けて行くのに可なりな障碍らしい、それに拘はらず僅かな間に滿洲各店を通じ一千七八百萬圓の貸出しと千萬近い預金を有し、搖ぎなき活動の地盤を固めたのは蓋し盛んなりと云つてよからう

▼一大連支店の數字を檢するも最近の貸出現計は外國爲替約百五十萬圓を含み八百十三萬圓を示し、之れを五、六月末に比すれば、五百萬圓と云ふ突飛な程の激增を示してゐるその激增の主因は二三の巨商に對し特種の貸出しを試みた爲めらしい、預金は八百萬圓を有し、同じく前年に比すれば目覺しい增額である、これ大連財界膨脹の結果もあらうが、鮮銀の成績進展は遙に其の膨脹率を超ゆ、如何に活動を盛んに試みてゐるかを知るに十分である

▲今年の一月から開始した滿洲各店取引先間の振替送金制は頗る好評らしく、鮮銀の取組みは以來殖えたとの事である、手數料は無料でやつてゐるから、成績は上つて行くさうである、其の爲めの取引先の累進は目立つて來たが、其の鮮の二年若くは三年の後大連新營業所が建築されたら其の威容振りは一層鮮やかとなるであらう

＝仁川＝

▲府廳觀櫻會　楠野府尹は廿九日諸員慰勞の爲め月尾島に於て觀櫻會を催ほす由

▲春季種痘日割　仁川に於ては來る二十八日より五月十一日迄春季種痘を施行す可く施日日時及び場所等左の如し▲四月廿八日萬石町、松阪町、花房町、港町、支那町方面は檢疫事務所にて檢診は五月二日▲廿九日本町、仲町、海岸町、山手町、宮町、新町、寺町、濱町方面は竹園館に於て檢診は五月三日▲三十日敷島町、桃山町、柳町方面は華嚴寺にて檢診は同四日▲五月一日外里、龍里、栗里方面は元保健組合事務所にて檢診は五日▲二日內里、龍岡町方面は同組合事務所に於て檢診は六日▲三日花平里、新花水里方面は花平里壬生委員宅に於て檢診は七日▲四日牛角里、金谷里、松峴里、松林里、普通學校及び永化女學校生徒に於て檢診は八日▲五日午前公立商業學校及び永化學校生徒は商業學校にて同午後私立博文學校生徒及び同女學校生徒は博文學校にて檢診は九日▲七日山根町、高等女學校及び幼稚園々兒は高等小學校にて檢診は十日▲八日尋高小學及び商業專修學校にて檢診は十一日

＝大田＝

▲乾皮法實施期　忠南に於ける牛皮は其の品質頗る良好にして他道產に比し價格高値なるものは注意不充分なると斤量を增加せん爲め土間乾燥法を執り來りし爲め品質を傷ける事甚しきを以て忠淸南道に於ては一定の設備の下に乾皮法を制定し四月一日より實施する筈なりしが當業者の設備完成せざりし爲め一時延期し來りたるが愈々七月一日より實施する事に確定したり

▲製革會社創立　大田に於ける製革事業は前途有望なるを以て去る大正四年より其事業に著手するものありしも其後多少の迂餘曲折ありて出淸皮革合資會社の創立を見たるに今回更らに地方資本家に依つて大田製革會社を創立する事となり目下其の筋へ出願中なるが不日許可あるべき筈なり然るに株式組織と同時に前の合資會社を買收し去月十六日全部財産の受授ありたる爲め當分の間名稱を大田製革組合と稱し現に作業に從事し居れり原料は滿鮮及び露領哈爾賓に及び常に供給不足を告げ居れりと

▲面書記增員　其の筋の方針に基き里長の給料を節約し成るべくは書記を增加する方針にて大田郡に於ては書記の人選試驗を了りたるを以て不日其々任免を見るべし

▲保護牛數　大田郡內に於ける種付牝牛の保護牛は一月七十二頭二月八十五頭三月九十二頭合計二百四十九頭なりと

▲鐵道病院現況　大田鐵道病院に於ては目下病室の改修工事中なるが來月十日頃落成の筈因みに同病院の入院患者は目下八名外來患者約八十名內外なりと

▲澁谷支店長出張　湖農工銀行大田支店長澁谷大吉氏は社用を帶び二十四日忠南保寧郡へ出張二十八日頃歸田の豫定なり

▲軍人分會役員會　大田在鄕軍人分會は二十四日午後六時より佐藤分會長宅に於て役員會を開き來月六日總會を開き庶務會計報告役員改選其他の件を議決したり

＝晉州＝

▲水間警務部長招宴　新任晉州警務部長水間春明氏は二十五日官民有志數十名を晉州俱樂部に招待し新任披露宴を催したり

▲小學校長會議開催　本道公立小學校々長會議を來る二十六日より道廳內會議室にて開催する由

人事消息

▲花井卓藏氏（辯護士）▲大井靜雄氏（同）二十六日朝入京天眞樓へ
▲高橋彝次氏（帝國生命重役）二十六日朝退京
▲佐川榮太郎氏（三井鑛山技師）同上
▲三井久昌氏（京城監獄典獄）二十五日朝內地より釜山著同十時二十分發京城へ
▲新井金次郎氏（從侍武官長隨員）法定隨員とありしは誤植
▲山室軍平氏（救世軍大佐）二十六日午前釜山より通過北行

拙者儀在鮮中は一方ならぬ御厚情に預り有難く奉存候又今朝出發に際しては態々御見送りを辱ふし御芳志の段奉深謝候御貴名伺洩も可有之と存候間乍略儀以紙上御禮申上候

大正六年四月二十六日

清水組　越山徹二

歸敬式――午後二時東本願寺にて――

合掌せる善男善女
頭部に眞白なる小布を載せて 嚴肅な東本願寺の歸敬式

未來永劫に善智善識の人々佛陀の道に入つて幸あれかしと念じつゝ法主自ら利刀を執つてよきに導く歸敬式の行はれる二十六日はひたすらに後生安堵を願ふ多くの善男善女

■朝の程より 歸敬を受けんものと齋戒沐浴神身を淨めて南山本願寺別院に集まれり、さしもに廣き本堂内は是等歸敬式を受くべき人々その他の來賓にて犇めき合ふ有樣にして賑かなる事此上なし十二時より

■法主の出座 あるべき豫定の約一時間半餘も遲れたれば堪の瞻き本堂内には、歸敬を受くべき信徒の群れは孰れも襟より肩にかけて白布を覆ひ、頭部には同じく眞白なる方形の小布を載せて

■一刻千秋の 思ひに待ち受けつゝあり、やがて犀利なる剃刀を持てる法主の姿現はるれば一同頭を俯せて唱名合掌之れを久しうする內に正面宮殿內なる祖師の尊像に向て

■恭しく 拜禮を終れる法主はその前なる者より順を逐うて肅然面を改め容を正して端坐せる信徒の一人一人に利刀を宛て、剃髮得度の型を示し約四十分に亙りてその全部を終り然して歸敬者一同に對しては今日のからぞりによりて

■佛弟子の班 に入りたるを告げて更にその現世の安心立命を訓へて來世の幸福を諭し二時五十分を以て全くその式を終りたり

◆東宮相撲台覽
◆來る廿九日の御誕辰に◆

來る廿九日東宮殿下第十六回の御誕辰祝賀會の當日御餘興として或は豫て御嗜好の相撲御台覽あらせらるゝやも計られざる由漏れ承はれるが右に就き相撲協會年寄力士一同此

◆無上の光榮 に浴すべき事を樂み暮し居たる處二十三日戸田主事より協會の根岸理事に出頭すべき旨の通達あり理事は午後二時東宮御所に參候したるに主事よりも二十九日相撲御台覽の御內命を傳へられたれば理事は

◆有難く御受 けに及びて午後四時協會に立歸り友綱と協議の上早速各組の興行先に向つて此旨を打電したりされば各組とも豫定の巡業を都合して二十八日までに歸京する事となるべしと（東京）

大谷光演師の官民招待宴

朝鮮ホテルに滯錫中の東本願寺法主大谷光演師は二十五日午後六時より總督府側及び主なる信徒を同ホテルに招待して晩餐會を催したるが當日の

▲主なる來賓 は山縣政務總監、秋山軍司令官、立花師團長、國分、小原の兩長官、松永道長官、持地、關屋兩局長、金谷府尹、信徒側山口太兵衛、和田常市、廣江澤次郎、森勝次、進辰馬、天日常次郎、増田三穗、三好和三郎、梶原末太郎、山岸輸太郎、三田政治郎の諸氏その他にして主人側としては法主及び隨行の南條、村上の兩博士その他大幸京城別院輪番にて

▲主客合せて 約七十名、六時半食堂を開き法主の莊重にして懇篤なる一場の挨拶あり來賓を代表して秋山軍司令官之れに答へ宴に入りたるが主客何れも頗る打ち解けて清談浮話を交換し全く散會したるは午後八時半なりき

本社主催　南北滿洲視察團

哈爾賓市中の觀光
盛なる市民の大歡迎會

視察團一行は二十四日哈爾賓市中の巡覽を爲したり埠頭區は本人居留地なる團員の旅館より馬車を驅れば停車場前の踏切鐵橋の上よりは埠頭區及び傳家甸の全市を遠く指顧すべく處々に煙突の黑煙を吐けるは油房、製粉等の工場なるべし更に停車場前より新市街に馬車を驅れば

▼屋上日章旗 翩々たる帝國領事館を初め所在に各國領事館あり又極東の大百貨店よりニコライスキー寺院を經て東清鐵道廳に到れば附近は何れもベランダ附の官舍なり一行は更らに埠頭區に引き返し哈爾賓の銀座通とも謂ふべき北リスカヤ街の繁昌と

▼松花江畔の 雄觀を見たり、午後は更に支那町傳家甸を經て市中を巡覽せるが六時より居留民會公會堂に於て大歡迎會あり領事館員居留民會議員、鮮銀、三井、正金、滿鐵等の首腦者を初め官民の出席多く盛會を極む夜は又團員參々伍々哈爾賓の

▼夜景を見物 せり猶二十五日は到着の際同樣の盛なる見送りありて汽車は午後一時三十分哈爾賓驛を發せり斯くて汽車は一路南に向ひて松花江畔の大平野を驅り午後六時過松花江の鐵橋を渡る、車中の一行は愈々元氣旺盛にして昨秋來の露西亞的氣分に歡喜湧くが如く一人の病者なし長春驛には午後十時過著驛頭官民の出迎盛にして一行は直に名古屋旅館に入る（二十六日午前八時五分長春發）

談合事件聯合 審判第二日

談合事件聯合審判辯論第二日は二十六日午前九時半より高等法院に於て開かれ係官は前日同樣にて花井博士大井辯護士朝倉安住木尾赤尾の各辯護士出廷先づ大井辯護士の辯論あり次いで花井博士は約二時間に亙り辯ずる所あり正午一先づ休憩し午後一時より再度開廷小川辯護士の辯論あり傍聽者は前日よりも多數なりき因みに鵜澤博士は二十五日午後大辯論の末二十六日午前出發歸東せり

擔軍百六十圓を貯蓄
命よりも大事に

兩三日前現金七圓三十錢及び韓一銀行小口預金通帳一冊（預高百六十圓）を所持せる擔軍が京城市內を徘徊し居るを本町署の巡査が引致して取調べの結果江原道鐵原邑內金谷里生れの金建秀（三〇）といひ同人の自白する所に依れば數年前京城に流れ込み刻苦精勵の結果三十餘圓の現金を得たるより貯金もなさず一枚々々折りてお守札の如く朝夕肌につけ居りしに汗が染みて殆ど通用せざる迄に不潔となりたるも猶ほ肌身を離さず夜は軒下に臥し食物としては一品だに買はず塵埃箱より拾ひ食ひをして數年間に得たる金は一厘だに消費せず蓄積したる結果塵も積りて右の金額となりたるより之れを唯一の樂しみとしたるも頃日數ふる者あり銀行に預け入れたるものなりと

樹木九萬餘本燒失
黃海道殷栗郡大山火事の詳報

黃海道殷栗郡一道面牛山里國井洞雀谷山麓（國井寺所有林）より十七日午前十一時發火して九月山に延燒したることは既電の如くなるが折柄の烈風に火は瞬く間に擴大し長連警察署員郡廳員面事務所員等總出にて附近の里民四百三十六人を指揮して消防に努めたるも山岳險阻にして頗る困難を極め遂に國井寺所有林國有地に密生し居る五六年以上の松、櫟等の雜木合計約九萬三千本を燒失し其面積一千五町步の山林草原延燒して十八日午後三時辛くも鎭火したり此の損害約六百三十圓の見込みなりと原因は多分薪採りの鮮人がなしたる焚火の不始末より發火したるものならんと

航空隊の大演習

陸軍航空隊にては今秋を期し淺間山附近に於て空中戰の大演習を爲す可し（東京特電）

播州の官林數百町步燒失

播州赤穗郡那波村より赤穗町に通ずる高鳥山の官林より二十五日午後發火十二時間燃燒し數百町步灰燼に歸したり（大阪特電）

酒庫八棟全燒

二十五日夜兵庫縣津國西ノ宮東二丁目清酒醸造工場より出火し附近の酒庫八棟を全燒し翌二十六日午前一時三十分鎭火せり損害莫大なる見込なり（大阪特電）

宮島の夫婦情死

大阪府下岸和田今藤喜太郎（三）は妻鈴子（二）と共に二十三日宮島の海濱に到り抱合ひ心中をなせり（大阪特電）

◁視察團より▷

▲白玉山上の高い表忠塔 戰跡の思ひ出

■乃木將軍と白井中將――頂上の燈火――名物男と通譯――旅順の街――盛んな果樹園――

◇廿一日の朝旅順に着くと驛には白井要塞司令官が見えて居た、司令官は昨年まで京城に居た人、一行の來訪を悦んで自分も騎馬で白玉山に登つた

◇白井中將といへば中將は曾て旅順攻圍軍の參謀たりし人、白玉山の納骨堂から指して「十年ぶりに來て見ると何もかも思ひ出が深い……」と言はれたのも感慨深きことであつた

◇また中將は曾て乃木將軍の前に令息の戰死を傳へた人、當時暗き坑廳中の燭灯の灯影に乃木將軍は椅子に倚つたまゝ眠つて居られた、中將が血を吐く思ひで訃報を傳へると「保典がさぞ泡喰つたぢやらう」と鉢卷した額に天井を仰ぎながら事もなげに云はれた――その悲壯なる劇の舞臺は今自分の眼前にある、傳へた中將は今春霞の空に高崎山を指して居る

◇白玉山の表忠塔は白い大きな蠟燭を立てたやうである、費用はざつと卅萬圓、山が海拔四〇八尺の上に塔の高さが二一八尺なので夜は頂上の燈火が燈臺の代りとなる「塔の頂きでは黃金山の方の海上から來る水雷が頭を打つけて浮山死にます」と驛長さんがいふ

◇一行の馬車が砲臺の山道を登る度に後からは熊手を持つた少年がやつて來るこれは肥料にする馬糞を拾ふのであるが朝鮮の人達はその熱心さに驚いたやうであつた

◇旅順の山には此の頃松の樹が澤山植ゑられてある、松は勇士の血と肉を肥料とした爲めによほどよくなるしかし、これが爲めに折角の戰跡が見られぬことになりはしまいかと聊か心配せられぬでもなかつた

◇白井中將の官邸は舊市街の丘に當て見られステッセル將軍の居た邸である。

◇新市街北西町で久保田驛長の泣いたのをはじめとして二龍山では弓削巡査さんが泣き出した。旅順のはなしは見る度に聞く度に涙がしんくと湧む樣な感じがする

◇二龍山砲臺のお辨當は嬉しかつたら烈風に吹き飛ばされて何處に行つても遁れ場がない、殊に京城の佐野さんと大多和技師と廣江さんとはやうくの事でトンの蔭に身をひそめて箸をとりこんな所へ來ると一つ腹がひたいな

◇新市街の丘には西本願寺の大谷光瑞師の邸宅がある、佐藤超師と以前京城の本願寺に居た山本義之氏とか出迎へられた

◇旅順の名物男久保田驛長の說明はさすがに力の籠つたおはなしであつたが、これを通譯した平安南道の參與官鄭蘭采氏のはなしもヂエスチュア入りの頗る悲壯なるものであつた

◇旅順の街は寢むつたやうに物靜かな町、途上で見るのは海軍の水兵と工科學堂の學生と鐵道の人と支那人位なもの、それに此の地は果樹園がよいといふので梨の木なども頗る盛んに春の過日を杏の花が咲き亂れて居る

◇白玉山の下の急斜面で尋常科の六學年とも見ゆる小學生が頻りに棒切の鐵砲で突擊の眞似をやつて居た、旅順の新市街には肅親王の邸がある御家族は六十名以上で同地の日本人小學校や女學校に通學されるお子樣もある（廿一日旅順にて金谷生）

◇本紙携帶の解釋

◇頃日本町警察署の司法係から某鮮人に宛て取調べの筋あり何月何日本紙携帶出頭すべしとの端書の呼出狀を發した、是れを受取つた件の鮮人は別に新らしき葉書一枚を購求し之を携へて出頭し新らしい葉書を提出したので有繋の係官も『本紙携帶』の四文字の解釋の意味深長なのにハヽア成程

讀者文藝（一等には五十錢の書籍券を呈す）

▽物は付「落るものは」

○…落語の終り（三）　京城　二樂

▲なまけた書生　京城　二三子

▲海軍候補生　龍山　田口生

▲芝居の黑幕　鷹岩邸　大石　劍牛

▲一番札（先發）　龍山　染子

■課題及募集規定

■募集規程 ▲用紙は端書又は同形の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事

天氣 は 晴れ後曇り（廿六日午後六時迄）

日出 五時四十四分　日沒 七時十九分

商況

債券現物特電（東京）

二十六日出來値

東拓債券	七〇、〇〇
京城電氣	五六、〇〇
朝鮮銀行	一四一、〇〇
朝鮮瓦斯	一八、四〇
南滿鐵道	一四四、五〇

公債直取引（東京）

二十六日出來値

五分利特別	―
五分利甲號	―
一回四分	―
二回四分	―
甲五分	九七、七〇

深川在米特電

二十六日現在高

內地米	二〇、五六八
鮮米	六九、一二三
外米	一、七一六、二四三

東京期米特電

二十六日前場　五月限

寄付	七、〇九
二節	七、〇五
引け	七、〇一
止め	七、〇〇

大阪期米特電

二十六日前場　寄付 一六、八五　止め 一六、八三

下關期米特電

二十六日前場　寄付 一五、〇二　止め 一五、〇〇

雜報

●綿糸布反動安
米棉九十錢高 約六圓近く

綿糸の新値は更に新値を逐ひて遂に二百二十五圓先限の百九十六圓を見るに至り熱狂的相場を示現せしため遂に反動を惹起し前後場崩落の形となり

人氣は案外冷靜
綿布は三銘先物六圓九十錢十錢安

●開原大豆暴騰 十一錢方

十五日午後入電開原大豆相場は三圓七十錢となり現物一時方低落大抵保合及び其他十錢方下落銀價又四十錢下落

●賣止め中の粗布
前約口に引渡 賣止め解除の日明

東洋拓殖は粗布は去る二十三日以來引續き賣止め中にて此處新期の入荷品は前約口に引渡す筈なれば賣止め解除の運びとなる見込なり

現品は自然有力筋の手元に隱れ市中在荷は益々減退の傾

思惑商內甚だ盛
九十四圓處を仄めかし又芝店にては百九十八圓處にて事實の取引行はれ

正米更に沸騰

正米は昨報の如く俄然大暴騰を來せしが其後地方より各地に向つて買注を發する米所より何れも地場相場の高値に鮮人筋の買物なし昨今殆ど買手少き

●鮮人筋の買物に返電
一齊に猪突的の買振
見當立ち兼ね鮮白十七圓乃至十七圓五十錢を唱へ二圓內外の暴騰

精白米 十六圓二十錢より十七圓一二三十錢

俄然十七圓一二三十錢に躍進

白米小賣値も一二時間の內に一回十八錢と僅々の値上 明治四十二年以來の珍現象

●天然氷は豐富
平均五千貫 品質良好貯藏亦豐富

●今夏六圓より八圓迄位に
今夏は六圓より八圓迄位にて一般消費者は肉屋魚屋の冷藏用と市中四五十料の氷屋向きの外鮮人飲食店の使用高外に多く大店一軒にてよく一日一圓以上買込むる箇所少からずなほ比年增加の傾向ありて至多しと

仁川現物市場

仁川玄米	一〇六、四〇
南浦大麥	二〇八〇
平澤玄米	五四〇
天安玄米	三〇〇
島山白米	一九六〇
汶山白米	三四〇
大田玄米	一八〇

釜山穀物（廿五日）

△正米入津三百俵 氣配強保合を唱へ居れり
△正米入津少なし 依然高人氣を唱へ居るも前來の事
△太豆入津なし 落買人見合居るとの事

京城正米

一昨日午後以來急騰を來せし正米は其後に更に强氣狀態を呈し鮮人筋の買氣旺盛なる事は實に素晴らしき勢ひにて鮮白の暴騰より精白米之れに附隨して突飛な告げ原料は地場地方共に附ご賣物皆無といふ姿になり見當相場は陸上玄米十三圓四五十錢唱へなるも賣物なきより中には突飛の値をいくものありて合せ行はれず事實無見當同樣にて買人は何れも手を下す能はず只意外の成行きに呆然たる姿なり

京城雜穀

▲大豆は滿洲及び内地高の爲め買人甚だ多しと雖引續き晴天續きにて河水量盛々減じ舟運便なきを以つて在品なし相場は八圓六十錢見當を唱へつゝるも持主は尚一層高値の影響を受け朝鮮産又安値より約一圓五十錢方昂貴せしも京城には在荷殆ど皆無なり地方にては弗々取引行はれつゝある模樣なり相場は大玉にて十二圓三十錢見當ならんといふ

▲粟は産地相場暴騰の機先を制し依然繼續の激しき未價の昂騰するありて買物を促がしあり相場は一石十六十錢方の暴騰を唱へられ安値より約四五十錢方の昂騰を促がせしも産地相場に比しては爾後內外の下値也

▲小麥は內地好氣配を傳ふるも鮮內在品多く氣配立遲れの惑あり從つて目下の市況沈靜なりと雖も追々賣氣を引立てゝ來らん模樣なり

▲大麥は作柄案じと米高に遲れ之又好氣配なり相場は上物四圓七十錢次品四圓三十錢見當なり

▲胡麻支那產二十五圓處の高値を傳ふるも朝鮮產二十二圓五六十錢とい ふ下値にて賣買行はれ居れり

南大門の廻穀

仁川白米 一九〇　成歡郡 一八三

仁川期米

▲二十六日前場
前寄十六圓四十三錢安寄十七圓〇九

大阪前寄十六圓八十五錢と昨止より二錢安の入電二節同事移九十一錢と高移り大阪四節

仁川現物
中米五十六圓　文米千九百九十六圓
大米五百六十五圓

市場零聞

△二十六日前場 當限四十三圓〃五
中限四十二圓八十八錢出來高八千石

▲依然暴落す 氣配は高唱

正米の依然高氣配なると當限の五千石の解合行はれたる等にて氣配は高唱

期米 仁川海岸町三丁目 仁川米豆取引所仲買人 宮藤宗之助

賣買 電話長三六七・三六九（サ）又は（十）

大阪の小甘き入電

電に十三圓二十三錢と寄付五錢高と押し大阪跡高に三錢と氣勢なく二十錢と鈍化なり賣物多く折れ分筋のヲケロ賣り現はれ

出 大暴落を演

十三圓〇三錢と二十錢に遂にし買向ひたるが一圓新規に利喰に催して大人氣に遂に

賣 無數に現はれ 例の持米筋の繋

動を演じたるが大體に於て人氣に背向せし爲め市場は投げ場を失ひたる者の如くにて今後の米界は大に注意

俄然氣崩れ

買方の爲に大打擊を與へたり然るに市場の人氣は益々悲觀し

實彈賣に對する鳥合の買人氣

▲當限解合 今朝當限の一部解合は左の如く附け出したり

賣方	三千石	一
買方	二千石	●
	五千石	

解合値段十三圓十二錢にて賣方は賣田筋にて買方は正米筋との事である是れ畢竟正米高に起因する解合たるや勿論である

森仲買店

仁川海岸町三丁目 米豆取引所仲買人 電話 店用 六五〇 本宅 入二三

△㋑の大商內 前場同店より買りたる玉數無慮一萬八千餘石に上りたりとの事

△㊀の大商內 同店より賣りたる玉數無慮一萬五千餘石買たる玉數一萬三千餘石に上りたりとの事

△㊁の大商內 同店より買りたる玉數無慮一萬三千餘石に上りたりとの事

△今の大商內 同店より賣りたる玉數無慮一萬四五千石に上りたりとの事

△㋷能く賣る 同店より賣りたる玉數一萬三千餘石に上りたりとの事

△三能く買ふ 同店より買りたる玉數四千餘石に上りたりとの事

△㊅能く買ふ 同店より買りたる玉數四千餘石の買ありたるも注目を惹いたり

△今の商內 同店より賣りたる玉數二千餘石の賣ありたるも注目

△全の商內 同店より買りたる玉數二千餘石に上りたりとの事

△實彈の威力 同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事

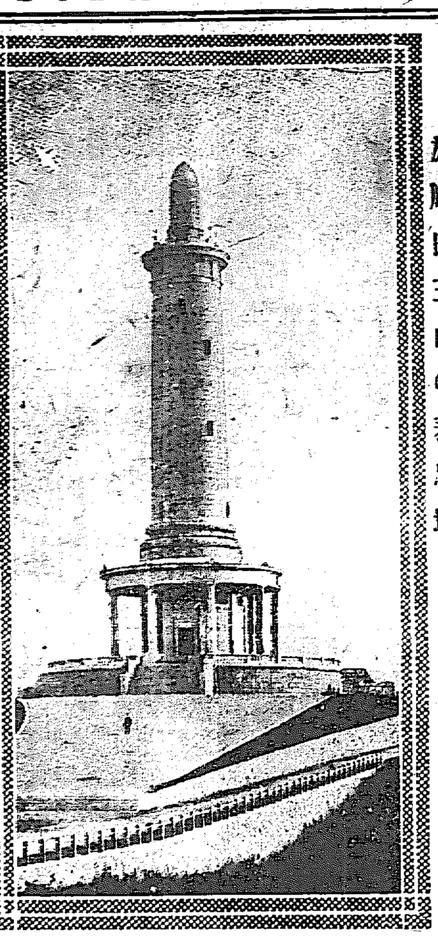
仁川米豆取引所

二十六日の六月限

前場	
寄付	十三圓二十三錢
止め	十三圓〃七錢
高値	十三圓二十五錢
安値	十三圓〃四錢
出來高	七萬七千八百五十石

平均値段	
一節	十三圓二十三錢
二節	十三圓二十二錢
三節	十三圓十八錢
四節	十三圓〃九錢
五節	十三圓〃六錢

賣買取組高		二十五日後場	前日と比較
四月限	二萬七百五十石	一三、二二	二高
五月限	一萬四百五十石	一三、一四	一七安
六月限	二萬五千二百五十石	一三、一七	一七高



旅順白玉山の表忠塔

白日の下の旅順要塞（一）

▽南北滿洲視察團の戰跡訪弔△

▽二龍山砲臺下の勇士の遺骨△

視察團一行は廿一日の午前九時大連を出た、汽車が本線から旅順方面への別れ道吳水子驛の前を駛る頃一行の頭は旅順の戰ひで充滿になつた、旅順からわざ／＼案內に來て吳れた久保田驛長は滿洲特有の

□**紅い帽子の庇** に擧手の禮をしながら『あれが乃木將軍の居られた柳樹房の跡、三軍司令部のあとあれが海軍重砲陣地のあと』と一々車窓の左右を指し示めす、そのうち汽車は刻一刻旅順に近づき先づ東鷄冠山北砲臺が見ゆる、望臺が見ゆる、二龍山が見ゆる、松樹山が見ゆる、『ここが現關東州都督中村將軍の白襷隊のあとです』と聞く間に汽車は停車場に著いた、プラットホームを見ると先づ

□**京城でお馴染** の白井旅順要塞司令官をはじめ吉田民政署長、澤渡檢察官、白須、依田兩秘書役、市會議員全部の盛んなる出迎ひがあつた、一行は驛頭より五十餘臺の馬車をつらねて電光形白玉山の坂路を登つた上には高い／＼二百十五尺の燈臺のやうな表忠塔が春空に聳えて一行が絕巓に著いたのは午後十時十分であつた、團員は先づ納骨祠前に參拜して

□**玉串をさゝげ** 遙かに旅順要塞の春靄める空を指呼展望した、打ち見やる旅順背面の天險には遠く近く墓標のやうな記念塔が見ゆて數萬の人を屠り鮮血を染めた十年前の修羅場には只春の日射がさしこむばかり山は永遠の沈默のまゝに起ちつくして居る、山上に起つて當年乃木將軍の參謀たりし白井中將の指頭を見れば『あの

□**爾靈山の右に** 見ゆるのが高崎山で戶ふのかすめる山が屢々軍司令部の出た柳樹房の前の山だ』との說明『一番苦しかつたのはその二龍山と東鷄冠山北砲臺だつたよ……』と中將は佩劍を杖にして感慨無量の面色であつた、傍にはまた戰跡案內として有名な久保田驛長が洋杖を指しつゝ大聲に話る、團員の卵に

杏の咲た電光形の道を登つて

瞬々たる砂塵をあびつゝ東鷄冠山北砲臺に出た、脚下には遙かに狐色の曠野を隔てゝ右に大孤山がならぶ、此の排除!!此の胸牆!!山は靜かに沈默のまゝに春の日をうけて當年肉彈の著者が斃れたあたり可憐なたんぽゝの花と淡き紫の菫花の幾株かが咲いてゐる

□**砲彈に碎けた** 厚きベトンの砲壘のあと土龍の穴の如き暗路の幾道筋!!團員は皆頭上冷水をあびせられた感じである、降りにはすぐ一戶砲臺が見ゆるその後ろに高く望臺が見ゆる、說明の久保田驛長は感極まつて眼をしばたゝく團員も赤鼻をすゝつた、かくてまた行手を急ぐ馬車は砂塵をあびつゝ鉢卷のやうな山道づたひ二龍山に向つた、砲壘にはモウ左翼の人の馬車が乘り捨てゝあつた、旅順市役所から廻された

□**數人の婦人は** 辨當とお茶を一行に渡した、唯見れば破壞されたる砲壘の上には記念碑の石塔が儼として衝立ち遙かに老鐵山の彼方から吹きつける風はハタ／＼ハタ／＼と外套をたゝく、貰つた辨當は砂ザラ／＼で更に箸をとる場所すらもない、止むを得す厚き砲壘のベトンの陰に身をひそめ吾飄々たる黃風は猶も用捨なく吹きつける折から『發掘品が出た／＼!!』と叫ぶ人がある『何處に／＼!!』と一同が

□**暗き土龍道の** 穹窖暗路を下つて行くと物凄きベトンの穴道にはメラ／＼と幽かなカンテラの灯がゆれて奧の方には數人の役員らしい人が起つて居る、唯見れば暗路の傍の叺の中にのぞくは十年前の勇士の髑髏？黑い軍服の小片はそも何處の誰れの遺品であらう!誰れか『軍刀がある／＼!』といふ、見ればつかには圓形の中に桔梗の紋の彫刻があつて刀身には

□**數個の彈痕が** 所有主の奮鬪を物語つて居る、傍にはまた一個懸き鏡の懷中時計があつた、時計の針は午後二時二十分を指したまゝ止つて居る、硝子蓋の破れたところを見れば止つた同時刻に所有主は二龍山の胸牆に飛び込むだものらしい、大元帥陛下の御詔のまゝに愛する自分の祖國の爲めに軍刀の所有主は地獄の底に躍り込むだのだ……薄暗い穹窖內の暗路のかげ

□**一行の數人は** 默々として言葉がない『此處に來たのは確かに金澤の三十六聯隊です』と誰れかゞいふ『新聞に書いたら紋章を由緣に誰れか遺族が知れさうなものですね』……といふと赤帽の久保田驛長は沈痛な面色で靜かに／＼に肯いた、南無阿彌陀佛／＼!!壕の外には相變らずの風がふく（二十一日旅順にて金谷生）

輕氣球で空中から配る

名を『王の喇叭』と呼ぶ佛國の小新聞

白國新聞紙『自由なる白耳義』の名は廣く世界に喧傳せられて居るが其の附錄で『王の喇叭』と題する新聞紙に就ては多く知られて居らぬ模樣である、之は佛國ルハーヴルで發行せらるゝ一小新聞であつて每月數ともある

◇**一回諸戰場** に於ける一般の形勢や又白耳及び白國人に特に密接の關係ある新事項を抄報して居る、該新聞紙の所報は常に精確であり、換言すれば幾多の不誠實なる新聞の記事とは非常な相違がある蓋し敵國は此等の新聞紙に依て白國民の

◇**意氣を銷沈** させ樣と計つて居るのである、『王の喇叭』紙は長さ廿五センチメートル幅十五センチメートルの小印刷物で一部の重量は一瓦である、從つて千部なければ重量一瓩にならない譯である

◇**西南の風が** 吹く日輕氣球は最近發行の該新聞紙三百五十部の包三個を一條の綱に結び付け之を氣球に垂下せしめた儘白國の戰場を出發するのである、そして出發の際此の綱の下端に火を點ずる、すると輕氣球の進行中に綱は徐々に燃ゑて行き半時間後には第一の

◇**包は解けて** 落下し新聞紙は散亂する事になる、綱は風の强弱に應じ其の長短を調節し以て輕氣球が和蘭の領地に達せぬ前に此の貴重なる印刷物を全部撒布せしむる樣心掛るのであつて氣球は時々和蘭に降下する氣球は普通海拔二千米突の

◇**高所に昇騰** し斯くて此の高空から所謂吉報の雨が三回地上に降るのである、在ルハーヴル白國政府が發たる確證に依れば『王の喇叭』は各其の配付地にて巧に密讀せられて居る、又白耳義から

◇**和蘭へ送付** せられた數部は之を其の出所へ返還し來り之に依つて此の蝶の如き愛國新聞が彼地にて歡迎せられたこと又白國民がその配付に就き感謝し居ること證明せられた事があるといふ

北漢山の史蹟（二）

稻田春水

次に北漢山城のことを申上げます、今を距る一千九百餘年前、百濟溫祚王時代に山城が築きまして、それより約五百年の後、蓋鹵王の時に高句麗の占領する所となりましたと同時に城は廢滅に歸し、それより一千二百數年間の消息は分りませんが、下つて朝鮮肅宗王の三十七年、今を距る二百年前に古城の遺址に石の築きました、現今殘つて居ります城壁がそれでありまする彼の山の洗劍亭と蕩水瓢の石佛との中間に大なる水門（五間水）があります、丁度眼鏡仙の樣です、尚ほ捲門內部の石壁面にその當時築城當路の役人名年月が彫刻されてあります、その頃は南漢山を攻め落されて間のない時で江華島や南漢山城は最早恃むに足らぬと思ひまして築きました唯一の山城のことでありますから

▽**隨分堅固** に造られてスワ鎌倉と云ふ時には數十萬の民衆を籠城する計畫となつて居りましたが、倉道路が頗る險阻でありますからして、糧食運搬の不便を感じましたと見ゑて、山城の內外に多くの寺院を建て、僧兵を置つた形跡があります、併し現今でも津寬寺、文殊庵、普光寺、僧伽寺、元曉庵その外數箇の寺刹が殘つては居りますが、その當時の盛んなる趣は漸く消ゑなんとして居ります、次に新羅の眞興王巡狩碑のことを申上げます、此の山を洗劍亭の方に向て下りまする右手の方に北漢山の分脈の高い處に碑峰と云ふのがありますその頂上に一の古碑が殘存して居ります、碑面の文字は磨滅して居りますが、之を摺拓したならば七八十字位は辛ふじて讀むことが出來ますその中に『眞興太王』とか『南川軍主』とか『道人』『忠信精誠』とか又

▽**新羅時代** の職官名が現はれます、此の碑は『無字碑』と申しまして色々の說がありましたが、今より百年前に阮堂、金正喜と云ふ有名なる金石の學に通じた人の考證に依りまして新羅眞興王が北漢山に巡狩されて境を定められた事蹟を記されたものと鑑定を下しました、碑の建立は今を去る一千三百年前であらうと推測されます、碑の下の方に僧伽寺が在りまして岩窟の中に石像があり又彷々の自然岩に佛像の彫刻があります、その面相の慈派、手法の優秀なるいと、恐らくは高麗初期か或は新羅末期の藝術ではないかと思はれます、それから漸く下りまするさ、新羅時代の藏義寺の遺址に幢竿支柱と思ぼしき石柱が殘存して居ります又洗劍亭は溪流に臨んで建られた六角形の一小亭ではありますが、李朝中期、綾陽君（後に仁祖王）が彼の光海君を廢する爲に彰義門から突破して時に景福宮に侵入せられんとする前夜、此處の岩石で劍を磨かれたと云ふ

▽**由緒ある** 所であります、其處より彰義門（北門）に向つて右側に石坡亭と云ふのがあります、之れは今より二十年前に永眠された雲峴宮、大院君の別莊で御座ります、それより眼を北方に轉じまして、右は加五里、左は牛耳洞、加五里には華溪寺と云ふのがあり、此附近の山紋には李朝時代に製造した三島燒の陶器の跡が殘つて居りますその外附近の史蹟關係の御話を申上げんとすれば到底際限はありませんから此の位の處で止めて置きまして他日の機會に讓ることゝ致しませう、格別興味のない話であるに拘らず、御辛抱して頂いたことは諸君に謝して深く感謝する次第で御座ります。（完）

▲**能樂一行平壤行** 平壤謠曲界にては豫て目下滯京中なる今株能樂家元宗家寶生新三郎一行を聘すべく寄々協議中なりしが愈々相談纏り純益の全部を寄大典記念公會堂に寄附する目的にて公會堂新築委員發起となり觀世、寶生、喜多流の三派聯合して之を後援し平壤に於て二日間興行することゝなれり因に一行は京城打揚後仁川に赴く筈なれば平壤到着は二十七日にて二十八、九日の兩日開催すべしと

▲**普通ソースの製法** 西洋料理で廣く用ふる、ソースを作るには、醬油と酢とを等分に鍋に入れ唐辛子、胡椒、桂皮、人參、玉葱など稍々大きく切つて加へ、又火にかけて一時間あまり煮出し、その汁を布にて漉し壜に詰めて密閉しておきますこれは洋食店で賣つておるものとは製法が違ひますが、日本人の口には此の方が適します。またこれならばおひたしなどにかけて大變結構です材料の分量は、醬油と酢各一合、赤唐辛子五六本胡椒小匙一杯、桂皮の中くらゐのものならば五枚西洋人參一本、玉葱中くらゐのものならば二個の割合で用ひます

法人登記

龍仁地方金融組合登記事項中左ノ通リ變更ス

一、出資總口數 參百八拾七口

一、拂込ミタル出資ノ總額 壹千五百八拾壹圓五錢

大正六年四月貳拾四日登記

右 京城地方法院金良場出張所

大正五年下半期決算報告

貸借對照表

貸方	金額
資本金	四五、〇〇〇、〇〇
法定積立金	參四、〇〇〇、〇〇
別途積立金	壹〇貳、五〇〇、〇〇
所有物償却積立金	壹四、〇〇〇、〇〇
配當準備積立金	七〇、〇〇〇、〇〇
仲買人身元保證金	貳四、〇〇〇、〇〇
賣買證據金	壹四五、八壹五、〇〇
諸預り金	[illegible]
受託證據金	[illegible]
未拂株主配當金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
計	[illegible]

借方	金額
地所建物	[illegible]
營業用器具	[illegible]
所有有價證券	[illegible]
貸付金	[illegible]
預金	[illegible]
定期預金	[illegible]
調査費	[illegible]
假出金	[illegible]
電話加入料	[illegible]
仲買人保證金	[illegible]
計	[illegible]

利益金ノ處分

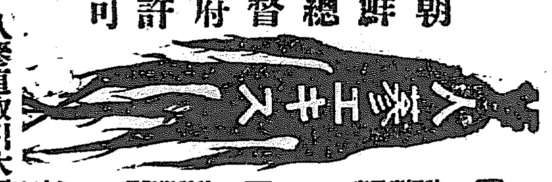
內譯	金額
法定積立金	五、〇〇〇、〇〇
諸償却積立金	[illegible]
所有物償却積立金	[illegible]
配當準備積立金	[illegible]
役員賞與金	[illegible]
前役員退職慰勞金	[illegible]
教育寄附金	[illegible]
株主配當金	[illegible]
特別配當金	[illegible]
後期繰越金	[illegible]

右ノ通ニ候也

大正六年四月

株式會社 仁川米豆取引所

朝鮮總督府許可



人參直取引大販賣所

人參エキス 人參製藥、人蔘飴 朝鮮名産一切製造本舖

京城本町一丁目 津村兄弟商會 電話一四八〇番 振替京城三五一〇番

京城本町一丁目 津村兄弟商會人參部 電話一八七〇番

支店 龍山支店 龍山元町三丁目 大邱支店 京釜線大邱驛前 釜山支店 朝鮮釜山大倉町三九四番

其他全道の藥舖にて販賣致居候萬一藥舖に無之御地方は直接本舖に御注文次第速に發送可仕代金は振替に依る事が最も安全且つ御便利に候本店支店共市內は御一報次第配達可致候

內用 精能效 神經衰弱、神經痛、老衰、痔疾、肺病、胃病、子宮病、婦人病、營養不良、諸病後より起る滋養強壯劑なり

外用 精能效 神經痛、火傷、凍傷、打撲傷、切傷、腫物、肩の凝り、蟲に螫れた時、筋の張り等によし

定價 [illegible]

▲書籍案內▼

山縣五十雄譯 五版小說 過去の罪 價五〇 稅〇四

井田絃聲著 小說 妻 價七〇 稅〇八

德富蘆花著 小說 不如歸 價四〇 稅〇五

同 縮刷小說 思出の記 價六〇 稅〇六

京城日報代理部（振替京城三〇〇）

和洋家具 京城本町三丁目 増田本店

いゝ匂が永く保つ一點の非難なき

原料香水 オリヂナル

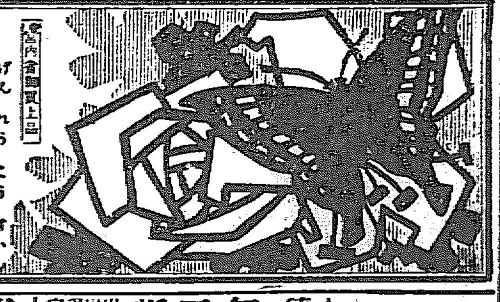
（宮內省御買上品）

◎尊き方々を始め上流社會の御用益盛んなり

◎近來粗惡なる原料香水の模造品續々現はる御求めの際は發賣元に御注意

本舖東京 安藤井筒堂

關西代理店大阪 藤森源之助



京城旭町一丁目 小林醫院 內科小兒科 入院隨意（普通病室並に隔離病室） 醫學士 小林千壽 電話六九二番

德田春風先生著 小說 夫人と運轉手 心中する迄 松浦舞雪口繪 廣瀨楓齋裝幀 四六版裝幀極美全一冊 定價三十八錢送料四錢 小說目錄進呈二錢切手要す

忽五版 出た出た某伯爵令夫人と運轉手の情死せし悲慘なる事實相愛豊翅の蜜の如き眞情を新に網羅せし現代上流家庭の活小說 發行所 大阪北區梅田英電前南 振替大阪二七七五二番 贅六堂出版部

价川輕便鐵道 列車時間表

价川發	前六、〇〇	九、〇五	後十二、〇五	二、四〇
新安州著	前七、五五	十一、〇五	後二、〇〇	四、三四
新安州發	前九、一〇	後十二、二〇	後二、四五	五、三〇
价川著	前十一、〇三	後二、二二	四、三七	七、二八

內科 胃腸病 診察夜九時迄 京城本町一丁目 石川醫院 電話 一二七三 九二〇九番

各種萬年筆即時修繕 京城旭町二ノ六 東京パイン萬年筆出張所

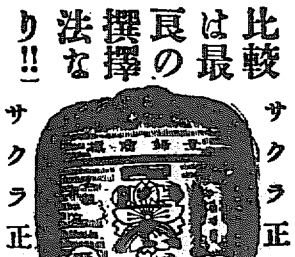
罐詰入荷 弊店發賣の「鶴系イ丸」は非常なる好評を博し忽ち品切れと相成候處今回新荷著仕候間御用命被下度本年も既に漁期終了と相成製造も一時休止仕候に付後は當分入荷無之內地も益々好人氣に御座候此際至急御下命あらん事を偏に御願申上候 拜具

軍人印パインアップル 朝鮮發賣元 釜山 あづまや商店

眼科專門 入院隨意 京城明治町東拓橫（電話二〇四四番） 日曜祭日午後二時迄 江頭眼科醫院 江頭富雄

比較は最良の選擇法なり!!

サクラ正宗 サクラ正宗



京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話 [illegible] 振替京城五七番

入院隨意 田中丸病院 京城西小門町二一番地（舊醫院跡） 院長 醫學士 田中丸治平 醫師 上野和夫 電話八八五番

時計卸商 登錄商標 京城黃金町二丁目 喜多金光堂 電話一〇一五・振替京城七八二

明君道中記

第百廿七席　田邊南龍口演

大久保彥左衛門は　彥『然るに何れも大藏を傾して居りながら何うしてものだ、僅か二人や三人の者が陰謀を企てたればとて各々大きな城を預り多くの家來を有し居る者が指標へて居ると云ふは情けないことで天下の諸侯もないものだ、頭から夜具を冠つて居たら何うだ寒氣がすると見ゐてブル〳〵慄へて居るではないか』あゝいふ憎まれ口を利く老爺だ、武君彥左衛門の申す通り、天下は廣大なり僅か十七萬石か十八萬石の大名お通とんぼを打つても迚も陰謀を架せるものではない、將軍の威光を以て是を討つに何の難きことは無い、と今まで心配をして居つた者も幾分か勇氣がつく、家光公お聞き遊ばして　家『然らば彥左如何いたして宜いか　彥『然らば申し上げます、恐れながら少々御免を』と立上り、ハテ何處へ行くかと一同見て居りますると彥左衛門は衣類を脫いでしまひ御前も憚らず素裸體になつた、あゝいふ老爺だ、意見を述るかと思つたら裸體になつて踊を踊るのか、此處で裸體踊りをされては堪らんと各々見て居ります、スルと彥左衛門庭の隅に井戸がございます、其處へ參つて　彥『其處に控へて居る若侍水を二三杯汲んで貰ひたい　侍『何をなさる　彥『浴るのだ　侍『誰が　彥『誰がと申して裸體になつて居る我輩が浴ることは極つて居る』揃突をくつた若侍は此の老爺めと云つて突如水を汲んで彥左衛門の頭からザーッとかけた　彥『あゝ吃驚いたした、コレ〳〵未だ支度もせぬ内に浴せる奴があるか井戸端へ跼踞でさア宜いと申してから浴せるのだ、小言を申したによつて其方共生意氣に突ッかゝつて來たな、水を浴せられた位で驚く樣な大久保ではない　若『それでも御老體今浴せた時にあゝ吃驚したと仰せられたではございませんか　彥『今の吃驚は洒落に云つたのだ』それより二三杯水を浴て彥左衛門柏手を鳴し　彥『恐れながら日光樣へ伺ひ奉る、此度我君御社參を仰出されたる處宇都宮城內に事起り、進退茲に谷るの場合顧くば神祖の御指圖に預り度、將軍家御身體如何いたして宜しきやお告げの程を願ひ奉る』と大きな聲を出して頻りに拜して居ります。スルと不思議なことがあるもので、左手の木の影より白鳩二羽飛出した一同是はと思つて樣子を見て居りまする、其の鳩は江戸表の方を指して飛んで參りまする、其の影を見送り大久保彥左衛門大音を揚げ　彥『皆各各鳩の飛んで參つた處が判りましたか　一同『拜見いたした　彥『斯く云ふ彥左衛門一心を籠めて神祖に御指圖を願ひし處、二羽の白鳩が彼の木影より出て江戸の方へ飛去つたるは正しく將軍家御歸府の儀を神祖よりの御勸めに相違ない、依て只今より御支度あつて當所より江戸表へ御歸府出されて然るべし、此時井伊掃部頭其處へ進み　井『アイヤ彥左衛門江戸表へ御歸城は然るべきも、此儘にして御立退に相成れば必ず道中を妨ぐる者あらんと心得る　彥『イヤ其邊拔目はござらん、日光へは御代參を立られ、又將軍御身代りの人物を選んで將軍家御輿物に乘せ、又其の身代りいたす者の輿物へ將軍家御召に相成り江戸表御臨府遊ばさるれば何の差支も無之　井『ウム然らば掃部尋ねるが此度日光御名代今夜宇都宮城內へ一泊いたす者は何者が宜しいか、彥左衛門見立よ』と仰されました。

齒科診療　野田齒科醫院
齒科醫士　野田應治
本町一丁目三越向　電話一〇四七番

曆

四月廿八日　九星
舊三月八日庚子
本命四綠[illegible]

[illegible]

演藝案內

浪花館
明治町　電話二六〇
[illegible]

有樂館
早川演藝部直營　電話二〇五番
▲泰西悲活劇『呪はれた伯爵』（全三卷）[illegible]
▲新派大悲劇『蔦もみじ』（全三卷）[illegible]
▲舊劇實錄三國傳來『九尾の狐』（全五卷）[illegible]

御成座
御成町　電話一一九一
▲大阪毎日新聞連載小說　菊池幽芳氏作　毒草　[illegible]

黃金館
電話二三七六・六五二
▲四月二十七日より新らしく
▲世界的大滑稽チーの逃走
▲舊劇『姐妃のお百』（全二卷）[illegible]
▲泰西社界劇『母と別れて』（全三卷）[illegible]
▲新派悲劇『白枯梗』（全三卷）[illegible]

大正館
櫻井町　電話八七三
[illegible]
▲新派悲劇『不如歸』[illegible]

壽館
京城壽町　電話一〇三
▲筑前琵琶春季大演奏會　四月二十八日午後六時より[illegible]

有樂館
▲泰西活悲劇　呪はれた伯爵　全三卷
▲新派大悲劇　蔦もみじ　全三卷
▲舊劇實錄三國傳來　九尾の狐　全五卷
京都に於て大好評の活悲劇及び當館封切寫眞は次ぎ興行地ノ都合上公開日數三日間限り

模範　牛乳
ニウソ　石鹼洗粉
主務獸醫　肥塚正太
京城蓬萊町四丁目　東亞牧場　電話五二番

ミツワ石鹼
"MITSUWA" SOAP
The pure soap, from chemical point of view, should dissolve trnsparently in Alcohol with no sediment at all. Not only MITSUWA SOAP fulfills that requirement but it possesses a delicate and refreshing smell. It is absolutely free from all traces of impurities and contains no "free" Alkali. It makes a soft, creamy lather, which cleans the skin thoroughly, and wears to a last wafer. MITSUWA SOAP gives comfort and satisfaction every moment of its use for toilet, bath, or nursery.

凡そ石鹼は、工業用、洗滌用、洗濯用、浴槽用化粧用等各用途に從つて其種類を異にすこと雖も、而かも皆等しく、遊離の亞爾加里なく遊離の脂肪なく、其の混合物なき化學上の純石鹼たらざるべからざるは、素より當然皮脂の分秘量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黑を貴ぶ毛髮の洗滌に用ふべき化粧用石鹼は、啻に化學上の純石鹼たるの故のみを以て、其適否を論ず可らず

ミツワ石鹼は

一、化學上の純石鹼たるのみならず、なほ左の性狀を具備す。
一、原料を精選し、脂肪に、香料に苟も刺戟を感ずべき虞れあるものを用ひず。
一、溫雅の芳香を有す。
一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて、能く水にも溶解し、而かも浴室に用ひて半途に溶け崩るゝが如き憂なし

經濟に合する、理想的實用品なり。

種類	定價
大形家庭用	定價金貳拾錢
中形浴場用	定價金拾錢
小形旅行用	定價金拾錢
小小形攻諸用	定價金五錢

現品實寫圖

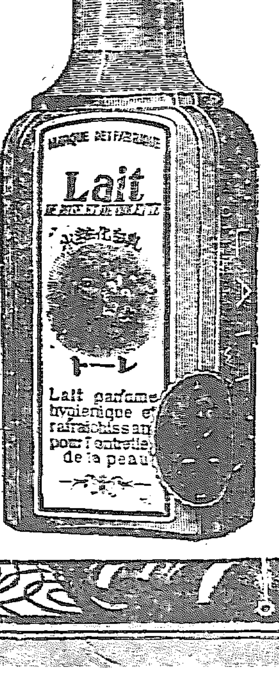
肝油ドロップス　ミツワ家庭藥

東京市日本橋區橘町四丁目　振替東京一七一〇番
丸見屋商店
電話浪花長特四四四八番・四四九〇番・四五〇三番

寫眞
寫眞出張撮影
寫眞銅版亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と可孫親切を旨とし御需に應ず
京城日報社寫眞製版部

白粉中の白粉、塗けて白さが異ふホーカー白粉
普通のおしろいとは肌の生地から美しい白さに塗く外にない美容劑本位の白粉一度お試し下さい
定價一函廿五錢　送料內地無料
本舖　東京和泉橋（長替東京一五六）　堀越嘉太郎商店

外出に御注意！
塵で皮膚が荒されます春の日に地肌が焦れます
此季節に安心なは
レート乳白化粧水を使ふ事です
▼一瓶のレート乳白化粧水は
㊀毛穴を開いて血色をよくします
㊁お顏の塵を取り日焦を防ぎます
㊂お顏にギラ〳〵浮く脂を留めます
㊃素顏を根本から美くしく致します
㊄白粉乘をよくしお化粧映え致します



天下一品の化粧水
本舖　東京　平尾贊平商店

京城日報
四月廿七日
（夕刊と合せて八頁）
本紙定價 一箇月金五十錢 三箇月前金 一圓四十五錢 郵税共
廣告料 五號活字一行金四十錢
發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之助
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

海印寺投宿
蘇峯生

大正六年四月十九日、卽ち內地に於ける總選擧の前日、朝鮮慶尙南道陜川郡伽倻山中海印寺の一室より啓上。

十八日は京釜線金泉驛より、自動車にて、一氣呵成に、十七里の長程を入時に發し、十時半に居昌に到著。途中の光景、山容、水形、悉く皆な我が中國路也。居昌にて予は椅輿に、萬能等は馬に、而して嚮導者として長谷部大尉、鈴木郡書記等と與に、十二時出發。京城にては杏花二三分の處、當地にては杏花滿開、桃花も半開也。隨處杏花を見る、遠望すれば櫻花の如し。龍山にて午餐と申せども、實は二時半なりし。此邊杏花ちら／＼と風に散る、くをして坐ろに小金井の此頃を想はしめ候。此れより愈よ險路に入る。輿夫前後に二人宛て、四人掛りなれども、寸進尺退、容易に進まず。但だ途中山躑躅滿開、自然生の連翹花滿開、而して道愈よ險にして、景愈よ奇也。海印寺の域內は、寺を距る、約一里半の外にあり。此れより頓に靈境に入るを覺ゆ。此日金泉にて朝曇り、漸次晴天となり、倻山にて雨一兩點、而して更らに陽光は黑雲を驅逐せり。されど海印寺に達する約半里前より、驟雨と成り、始めて激雷の山を動くばかり、頭上に轟くを聞く。如何に叱咤するも、輿夫進まず、今は此方も諦めて、其儘に一任し、斯くて七里の行程を、十一時に出で、六時二十分に著せり。十七里に二時三十分を要し、七里に七時二十分を要す。文明、非文明の差此の如し。單に道の險夷のみにあらざる也。寺僧の驩迎にて、直ちに投宿。却說晚餐の支度に、せめて鷄卵にても、と、寺僧に請求したるも、禪寺に鷄卵を求むるは、救世軍に正宗を求むるが如し。縱令所有あるも、與へざるが當然也。但だ當寺戶駐在所巡査の斡旋にて、鷄卵を得、鋤燒として、晚餐を喫したるは、寧ろ僥倖歟。寺よりは種々の精進料理を出せり。喫し了れば已に十時に近かりき。今朝は晨鐘の聲に驚かされて、起き出でたりと申したけれども、實は其の以前に目覺めたり。韓退之が「山石」の詩を想起して、坐ろに本文を誦め候。未だ顏をも洗はず候處、他の連中起き出候間、先は擱筆致候。不一。

大正六年四月十九日午前六時、室外頻りに鶯の鳴くを聞きつゝ

中立地帶金產地（四）

△滿洲に於ける

△化銅溝 熊岳城復州街道の大邑李官村の西方約二里の海岸に在る山間の小村なるが其砂金は官家屯の前を過ぎ化銅溝を經て海に注ぐ所の小流に多し

△金廠溝 萬福莊の東北約六里薛家屯より畢利河の支流に從ひて上れば約三里なるも水勢盛なるときは交通杜絕す鑛脈は片麻岩と花崗岩の接觸部に當り東西北五十度の傾斜を爲したるものにして其幅員變化あれども平均一尺位の石英脈にして或は花崗岩を貫き或は片麻岩を貫き脈面彎曲し山麓より頂上に達す其延長五六町に及ぶ含金量は百分中〇、〇〇〇一五なり

△轉灣子 二鑛の東方に當り土門子より東北二里餘を距る溪谷に在り鑛區地附近の地質は粘板岩及び硅石より成り粘板岩は北東に走り東南に二十度の傾斜をなし石英脈之を貫き五尺乃至七尺の幅を有するもの最も廣く其他二尺餘り鑛脈左右に二本あり殆ど直立す金鑛石は石英脈中に含まれ〇、〇〇〇一を示す

△老白山 水門子廟の西三十支里の所に在り丘陵の間に屹立し山軸東西に走り西に聳ゆる山頂を白山廟と稱す山の北方は其傾斜綏にして溪谷多く殆んど南北に走り大甎溝、呂家溝等と並行して大沙河の水源を爲すに反し南方は傾斜急にして溪谷少し地質は片麻岩系に屬し角閃麻岩角閃綠岩等より成りて東北に走り西北三四十度の傾斜を爲し三條の石英脈を藏す其幅約一尺餘にして北六十度東或は東西に走りて直立するものあり含金最多からず其他張家溝、疵子溝、姜家溝、窩々溝、馬家屯等の金產地あるも茲に詳說せず（完）

潜航艇の威力
海上權と潜航艇

今度の戰爭で潜航艇はかなりの活動をなしてをる。獨逸艦隊を以て匹敵し難き英米艦隊に敵對する事あれば堂々と打突かつては迚もかなはぬので、潜航艇を以て要擊し、敵の勢力を削減するといふ方法は最も當を得たものであらう。又軍艦のみならず運送船、商船をも擊沈して貿易の破壞にまで出でゝをる。獨逸潜水艇の各方面に活動せる隻數は英國方面に百二十隻、佛蘭西方面に二百八十隻、露西亞方面に百五十隻の多數に上つてをる近頃は

△潜航艇の効力が著しく機械水雷を布設する方法まで發見されてゐるが又、それを逃れる方法も研究されてゐて、武裝商船ならば十隻の中七八隻、武裝せざる商船でも十隻中二隻は逃れ得る見込がついてをる。潜航艇の活動は黑海方面、英國沿岸方面、太西洋方面の三つの中心に別れてゐるが各軍港や商港では之れを防禦するに港口に網を張つたり機械水雷を布設したりしてゐるのでさう恐れんでもいゝのである次に航空船及び

△飛行機と海軍 との關係に就てだが獨逸の艦隊が數倍の勢力ある英國の艦隊と戰つて有利な結果を示してをるのも獨逸の艦隊に航空船飛行機の助くる所が大である爲めである航空船飛行機によれば遠方迄敵狀を觀測し得るのである其報告は艦隊に至大の力となるものでそれは恰度無線電信のない時敵狀報告に巡洋艦や驅逐艦を配布して傳達してゐたのが無線電信が發明されて非常な便利を得たやうに今度は航空船や飛行機の發明によつて更に無線電信以上の効果を擧げ得る道を發見したわけである次に

△海上權に就て 鳥渡述べて見よう抑も海上權力は艦隊、根據地、海運力、通信力の設備を俟つて始めて實現さるゝのである此海上權力に及ぼす潜航艇の力に就ては大體結論に近づいてをるが今三四箇月の後に於て確實に證明さるゝであらうと云つても獨逸の潜航艇の活動が著しいと云ふ獨逸の海上輸送は開戰と共に間もなく消滅して居る然るに聯合國側に於ては敢て然らざるを見ても人は凡そ想像がつく事と思ふ又海上權力は

△貿易を保護するものであつて海上權力の擴充によつて貿易の發展を來し得るは確かである英國はの海上權力によつて獨逸の貿易は破壞された事實を見ても解るのである（潜航艇海軍中佐談）

石門寨炭坑近情

石門寨は山海關の西北四十支里、石河々岸に沿へる古城市にして人口約一萬五千に達す此邊には有名なる石門寨炭坑ありて秦皇島の東一丁餘の處より輕便線を架設する事十五哩にして其終點は卽ち石門寨炭坑の一なる柳江炭坑に達す石門寨炭田は一千三百萬坪に亙る斷地域にて炭層二十尺以上の者七、八層あり

△炭質は無煙炭 にて灰分稍多きも火力熾烈にして多少の開採炭を交ふる時はコークスを製造し得可し而して目下稼行中の者は柳江炭坑（支那人經營）と約炭坑（獨逸人經營）の二者にて合計二百萬坪位に過ぎず其大部分は古くより地方民の所謂狸掘をなせる者なり柳江炭坑は斜坑三を有し二十馬力の動力を有する機械を据ゑ目下二坑より出炭し一坑は休業し本坑昨年四月より開始し六月湯河驛にて輕鐵を布設し九月京奉線の改設に依り秦皇島迄之を延長し一日

△出炭量八十噸 乃至百噸位なり此約炭坑は柳江を北に距ること三支里許の地點に在りて光緒七年我河の李某始めて經營に著手し同十年李は在天津獨逸禮和洋行と石炭買賣の契約の下に同洋行より銀五萬元を借款し蒸汽機罐を据付けたるが同二十二年頃上海にて遊蕩の結果自殺を遂げ借款を返濟し得ざる爲め禮和洋行は支那政府より返濟金を借款せし政府通商銀行に炭坑の引渡を迫りて事件を落著せしめたり然るに其後同坑は又獨逸人の手に歸し昨年一月頃より十五馬力の動力にて稼行せるも未だ良炭層に達せざるが如し本炭田は

△質太だ良好 なる上に交通至便なる河口を有し其位置は指呼の間に在りながら我邦人は手を染むる能はずして却て本國に遠き獨逸人に依りて經營せらるゝは獨人の炯眼に敬服すると同時に我邦人の手落と謂はざるを得ず此他凌源縣（元建昌縣）の石油礦（不良なりと云ふ）は米人の朝陽縣のナンピアオ炭礦は英人に喀喇沁左翼石砕嶺の石綿礦は獨人の權利に歸せりと傳へらる今後邦人は支那人と適當の合辨經營をなすにあらざれば獨り本炭のみならず遼西及び東蒙の諸鑛山は自然外人の經營に歸するに到る可し

雜俎 零話

米國の侮り難き所以
山縣生

兵士としての米國人と題する愚文を讀んで或人余を詰りて曰く、なる程米國人の蠻勇侮るべからざることは了解した、然し今日の戰爭は勇氣のみで勝てるものでない。軍隊は訓練を要し、訓練なき兵は烏合の衆に異ならず。平日軍備の不完全なる米國はいざ鎌倉といふ場合に訓練ある軍隊を多く出すことは出來まいと。如何にも道理ある批評である。然し米國の軍國として侮るべからざる理由は他にある。今日の戰爭は勇氣のみで勝てるものでない。訓練の大切なるは勿論であるが、今日の戰爭に殆どこれと同樣に大切なるは精鋭なる機械である。佛國の戰地に於て近來英佛聯合軍が優勢になり始めた一大原因は種々精鋭なる武器を完成し、之を用ゐ始めたにあることは最近の外電によりても知ることが出來る。精鋭なる武器を能く使用するには知識と熟練とを要する。米國は工業の大に發達した國で、其壯丁の多くは平常機械工業に從事し、從て機械の取扱ひに熟練して居る。そこで大砲其他の武器の使用法を彼等に敎ゆるは頗る容易で、彼等は短時日の間に能く之を會得し、戰場に出て優秀なる働きを爲すことが出來る。此道理により、米國は平常軍備完全ならざれど、非常の場合にはよく短時日の間に精鋭なる大軍を編成し得るのである。軍事上米國を與し易しと思ふは大なる間違である。

迎句佛上人
‖五の日十の日會‖

○おん香のまへうしろ花ふりこぼれ　浮碧樓
○紺青の溺花の主を乘せ來る　華虹
○會下に參せし花の歡び　田柿
○押されつゝ仰ぐ鬐のうらゝか　虎耳
○檐の跡の風光る人なだれ　句平
○亂とり居て敎けらるゝ暖き　目池

日報詩壇

○送貴島吟中學卒業諸生　小永井槐陰
黃鳥長中谷。一朝遷喬枝。嚶嚶忙四顧。飛散遠近郊。郊上花如錦。日暮人漫交。風雨春修老。誤結安巢。人生少百歲。行路亦凸凹。勿貽貴鳥嘲。罷焉哉諸子。
評曰 感事託諷、運意深曲、　三寅

○次可玄兄移居韻　齋藤
松籟洗心龍影橫。擬雲排去俗紘輕。枕流一多禪味。悟了人間煩惱情。
評曰 超脫之言、凡俗不解也、

地方金融組合登記公告
東城地方金融組合登記事項中出資ノ口數ヲ貳百九拾口拂込ミタル出資ノ總額ヲ金五百六拾貳圓ト變更ス、監事朴基顯ハ大正六年四月貳拾日任期滿了ノ處同日再選重任、同日左記ノ者監事ニ就任ス
開城郡松都面滿月町百六拾四番地 李容善、開城郡青郊面德岩里拾五統三戶 黃中顯
右大正六年四月貳拾四日登記
京城地方法院開城支廳

商業登記公告
株式會社漢湖農工銀行春川支店登記事項中左ノ通リ變更ス
社債ノ金額金五拾萬圓（第五回社債）各社債ノ金額金貳千五百圓社債ノ利率年七分五厘社債償還ノ方法及期限大正六年四月拾六日ヨリ參箇年据置キ以後七箇年間ニ毎年貳回宛毎回金壹萬貳千五百圓ヲ九月壹日三月壹日以上ヲ償還スルモノトス各社債ニ付拂込ミタル金額金貳千五百圓
右大正六年四月貳拾參日登記
京城地方法院春川支廳

法人登記公告
信川地方金融組合登記事項中出資ノ總口數ヲ四百六拾口拂込ミタル出資ノ總額ヲ金壹千貳百八拾八圓ト變更ス
安岳地方金融組合登記事項中出資ノ總口數ヲ參百拾貳口拂込ミタル出資ノ總額ヲ金壹千貳百參拾六圓ト變更ス
右大正六年四月拾四日登記
海州地方法院載寧支廳

法人登記公告
楊州地方金融組合登記事項中出資ノ口數ヲ四百拾六口ニ拂込ミタル出資ノ總額ヲ金九百四拾七圓ト變更シタリ
右大正六年四月貳拾五日登記
京城地方法院議政府出張所

拂込金領收證無效
一、當社株式（參拾株）ニ對スル第壹回拂込金（金參拾七圓五拾錢）領收證壹枚 但シ中村係兵衞殿名義
右亡失ノ旨届出ニ付無效トス
大正六年四月二十七日
東洋拓殖株式會社

最新刊

書名	著者	定價
言行史傳大西郷全史	田中萬逸	二、〇〇
南洋遊記	鶴見祐輔	二、六〇
新聞年鑑（第一卷）	廣瀬社研	八〇
最新研究株式投機	稻村、小林	二、五〇
パナマ運河と列國貿易競爭		一、五〇
文章の作り方	堀江秀雄	一、〇〇
書翰文大觀	內海月杖	九〇
美文紀行旅の書翰	桑田哲秀	六五
土木工學材料及施工編	竹貫直次	一、〇〇
朝鮮之金鑛	町田長作	一、〇〇
教案中心算術教授の實際案		一、二〇
第一期第一稿工業青年成功譚		五五
和英對譯西諺小辭典	大澤貞吉	七〇
美學	阿部次郎	一、二〇
エムデン秘史	堀尾成章譯	八〇
草合	夏目漱石	一、三〇
お夏文代	菊池幽芳	一、一〇
土岐哀果集	土岐哀果	六五
隨筆自在生花秘傳集	諏訪簡齋	四五
基本練習川柳諸體かな帖	島村不老	四〇
ざつくばらん	飯田旗郎	一、〇〇
江戶落語集	小泉宇外	五八

運動具色々著荷致しました御用の節は早速御覽に入れます
大阪屋號書店 京城本町一丁目 電話六六〇 振替京城二五七三番

府及學校組合法規提要
宇佐美內務部長閣下題字 小原地方局長閣下序文 京城日報社編纂 袖珍
內容 勅令、府制、府令、訓令、通牒等苟も府制及學校組合に關係ある法規は細大之を網羅して漏さず就中卷末に附したるものの如きは最近七月に發布せるものまでも收めたるを以て府及學校組合は固より內地人各學校教員組合會議員其他關係者に取りては座右必備の良參考書たるは言を俟たざる所也
裝幀 携帶に便ならしめんため製本を袖珍とし紙數は三百餘頁總洋布天金製金文字入りの頗る美本なるに加へ殊に改正法規其他必要事項の記入に便せんが爲め每頁の上部約一寸五分を餘白とし更らに卷末に十數頁の白紙を綴込みて備忘要欄に供したるが如き以て本書編纂上における用意の一端を窺ふに足る
▲定價金壹圓廿錢 送料本社負擔
大賣捌元 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

サンエス萬年筆
サンエス萬年筆は品質を精良にし能ふ限り低廉なる定價を附す故に絕對に割引せず此品は責任ある萬年筆にして初めて實行し得べし
全國到處の文具店にて賣捌く
本舖 東京日本橋區呉服町 細沼淺四郞

四月二十九日より五月一日迄（三日間）三階に於て
高木背水畫伯
洋畫展覽會
近作品七十有餘點展覽賣約に應じ申候
京城本町 三越呉服店

帝國南進策
日印協會理事 副島八十六著 三好評如湧
四六版 三百五十頁 定價壹圓 郵稅六錢
▲印度南洋に於ける內外定期航路圖（印度南洋に關係ある內外二十五汽船會社の各航路約一百線記入港名約二百六十に達す）
▲各種統計比較諸表十餘種挿入
南へ！此叫びは高し。然れども何故に？—如何に！—之を說いて事實上に國民の肺腑に徹せしむるは無し。絢爛歌ふが如き詩人的評論や慷慨悲歌の如き志士的絕叫や少からずと雖ども眞に事實を基礎として一々數字の上に首肯考量せしむる我が副島八十六氏の本書の如きは空谷の跫音也
著者は二十年前初めて渡南し、爾後南洋諸國の間を往來する三回、滯留前後六年、細さに其風土人情及び商工業を究めて帝國南進策を說く二十年一日の如し。我が南進論の卒先者たると同時に其貫徹を以て使命とし、現に日印協會理事の職に在つて印度南洋貿易の發展及び日印の國際的親善を計策するに維れ日も足らず、印度及南洋を知り且紹介せんとするに於て唯の空論的政論家又は書齋裡の學究と撰を異にす。卽ち本書の所說は書籍の死したる文字に由らずして盡く活き實際の事實に基づくもの、例へば本書の基礎とする統計の如き皆な年鑑又は報告の數字を無定見無算籌に引寫しにしたるに非ずして、一々事實に由て檢覈斜繆したる如き以て著者の用意の細密周到なるを知るべく、一行一句と雖とも二十年間の辛苦蓄積を以て細察したる事實の結晶ならざるなし。今や未曾有の歐洲大戰爭は帝國貿易上に空前の天佑を與へ、獨逸が三十年間の勞力を以て築きたる東洋貿易の覇權を一朝にして取つて代らんとする時に方つて、一旦獲得したる今日の經濟上の位置を益々展進して再び失はざらんとする著者滿腔の熱心勃々として禁ずる能はず、此一篇を捧げて遍く帝國々民を警醒奮起せしめんとす。
南へ！何故に？如何に？帝國國是として國民が協力一致して嚮ふべき道は本書に由て明鏡物を照らすが如く明らかなるべし。
大取次所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報代理部

▲全能く買る
▲全能く買ふ
▲今の商內
▲昆の商內
▲當限解合
▲現物界

○段内閣の危機迫る

谷長商、總長は既に辭表を提出し張司法總長亦之に倣はんとし段内閣の運命は益々危險に瀕し來り民黨中にも現内閣破壞を試むる者さへ出で其の勢漸く優勢となれる旨報へらる(北京特電)

○各督軍外交方針贊成

二十五日午前軍事會議を開き各督軍及び代表者は政府の外交方針に贊成する事に決し各自署名せり(北京特電)

○理化學研究所へ御下賜

設立に就ては財團法人理化學研究所設立の趣旨聞し召され學術及び産業奬勵の思召を以て二十六日金百萬圓下賜の御沙汰あり右は大正六年度以降十年間に金十萬圓宛下賜せらるゝ筈にて諸井男、高峰博士は同日午前十時三十分宮内省に出頭し石原次官より右御下賜金を拜受し御禮執奏を請ふて退出せり(東京特電)

▲聖恩鴻大 前記理化學研究所に對し今回百萬圓御下賜の御沙汰ありたるに就き澁澤男は語つて曰く「聖恩の鴻大なる感激に堪へず所員一同一層努力し以て理化學研究の大成を期し聖恩の萬分の一に酬ひ奉るべきは勿論近々所長以下役員を發表すべく同本部竣成迄は東京帝國大學研究室か或は工業試驗所の一部を臨時代用して事業に着手すべし」云々(東京特電)

○臨時議會と海軍省

海軍省にては來る臨時議會に既定計畫の進行に伴ふ新艦船經費三百萬圓修理費百五十萬圓を初め所謂八四艦隊完成に伴ふ六年度以降十二年度に亙り支出せんとする軍艦製造費二億六千六十四萬千七百圓及び其他緊急已むを得ざるもの一、二を提案する事に決せり(東京特電)

○顧問官親任上奏

寺内首相は二十六日午前永田町官邸に於て清浦樞府副議長と約三十分間會談し後寺内首相は宮中に參内天機を奉伺したる後何事をか奏上する所ありたるが聞くところに依れば右は樞密顧問官二名の補缺親任に關する奏上を爲し御裁可を仰ぎたるやにて近く親任式を行せらるべしと(東京特電)

○顧問官親任式

既電寺内首相伏奏の結果樞密顧問官二名の親任式は二十七日午前十時宮中に於て行はせらるべく右親任者は陸軍大將伯爵黒木爲楨貴族院議員男爵有地品之允の二氏なりと(東京特電)

○鮮滿鐵道合併

當局間に攻究中

南滿鐵道及び朝鮮鐵道合併經營に關しては去る十九日首相官邸に於て寺内首相を初め後藤鐵道院總裁、本野外相、大島陸相、中村滿鐵總裁、大屋鐵道長官等參集し專ら軍事外交經濟の三方面より之れが利益得失に就き攻究せし由なるが一般經濟上より謂へば運賃並に營業上の統一經營節約等總ての點に於て合併經營の利益なるは論なきも軍事外交上の關係に至つては何分重大問題なるを以て外相陸相共未だ確信立たざるものゝ如くなるも要するに該問題は何れの形式に依るも結局議會の協贊を要すべく來る六月開會さるべき特別議會迄には解決困難ならんも年末の通常議會迄には何分の解決を見るべしと(東京特電)

○婦人小兒渡航解禁

先般來禁止せられ居りし婦人及び小兒の英本國渡航は漸く解禁せられたり(大阪特電)

○白國兒童救濟金

白國兒童救濟資金は神戸市エチレノール氏の努力に依り二萬圓に達せり(大阪特電)

○片岡大將待命

片岡海軍大將に對し二十六日左の如く辭令ありたり(東京特電)

軍事參議官 海軍大將男爵 片岡七郎
免本職待命被仰付

○筑紫少將出張

二十六日左の如く辭令ありたり(東京特電)

陸軍省兵器局長 陸軍少將 筑紫熊七
支那へ出張仰付

◎御慰問使發期

朝鮮ホテルに滯在中なる御慰問使内山侍從武官長は廿八日午前八時三十分南大門驛發列車にて出發大田に向ふ可し

◎總督一行消息

長谷川總督一行は二十六日午前七時定和陵に赴き同十時發途中本宮を經て十一時三十分西湖津に出で直ちに乘船午後二時解纜せり歸途は元山に立寄り豫定より一日早く歸任すべしと(元山特電)

◎稚蠶共同飼育の効果

大正五年中の成績

稚蠶共同飼育は養蠶に從事する者をして育蠶の技術を實地に習得せしめ得るの便あるのみならず蠶種經濟の圓滿を圖り得る等其の利する處甚だ大にして蠶業の改良發達上必須缺ぐ可からざるを以て當局に於ては先年來各地共に之が奬勵に努めたる結果其の數逐年增加し大正五年に於ては二千九百十二個所四萬五千四十三戸を算するの盛況を呈し前年に比し個所數二割六分戸數二割四分を增加せり是等稚蠶共同飼育所に於ける同年の

▲蠶種掃立枚數 は六萬九千五百六十六枚にして收繭額一萬六千二百十四石の内販賣せられたるもの一萬七百三十石其の價額四十四萬二千六百十一圓に及べり之を前年に比すれば蠶種掃立枚數に於て一割七分收繭額に於て一割五分繭販賣額に於て二割八分同價額に於て九割一分の增加を示す又た之を同年の共同飼育に加入せざる養蠶家の成績に比較するに掃立蠶種一枚當り收繭額繭販賣額の總收繭額に對する割合

▲繭の販賣價格等 遙かに優れるものあり即ち左の如し

別	掃立蠶種一枚當收繭額	對總收繭額販賣額割合	繭一石の販賣平均價額
稚蠶共同飼育者成績	二三三合	六、割六	四一圓
共同飼育者以外の養蠶家成績	二〇六	五、六	三六

從つて設備の稚蠶共同飼育所は主として地方費又は授産費補助の下に經營せられ未だ獨立自營の域に進みたるもの多からずと雖も近來共同飼育の利益を了解し自ら進むで之に加入する者漸く多きを加ふるの狀況にして其の經營方法も漸次經濟的となり本年の如きは其の經費總計七萬五千六十六圓即ち共同飼育戸數一戸當平均僅に一圓六十七錢の少額に過ぎず之を前年の一圓八十七錢前々年の二圓四十七錢に比すれば多大の節約といはざる可からず之を要するに大正五年の稚蠶共同飼育は前年に比し著しく增加し何れも能く

▲其の効果を擧ぐることを得たり然れども之を地方別に就て見るに左表の示すが如く未だ其の振はざる地方若くは收繭成績の良好ならざる地方あり將來一層其の普及と經營方法の改善とに努力せざる可からず今大正五年地方別稚蠶共同飼育成績を示せば左の如し

道別	共同飼育戸數	掃立枚數	收繭額	繭販賣價額
京畿道	三、八六六	七、三〇〇	一、七六八石	四二、八六三圓
忠清北道	一、一七七	一、六〇三	四一〇	一四、一〇七
忠清南道	二、七六七	三、四四七	五九九	一五、五四五
全羅北道	一、二〇三	三、三九九	四四九	二〇、八八九
全羅南道	三、三一七	六、三三七	五〇一	一四、八八九
慶尚北道	四、三一七	六、八三一	三、〇〇四	三五、五三七
慶尚南道	三、四四三	五、八〇〇	一、〇六七	二九、六六八
黄海道	四、〇〇四	二、七三三	二、〇九九	四四、七〇四
平安南道	三、三七一	四、六五五	一、一〇〇	三四、六四四
平安北道	三、三七二	六、三六九	一、〇七六	四一、九七四
江原道	二、八〇一	五、七三一	一、〇〇〇	二六、四二三
咸鏡南道	一、七六四	一、七〇二	四〇八	一〇、三二九
咸鏡北道	一三六	二〇七	四一	一、四四七
計	四五、〇四三	六九、五六六	一六、二一四	四四二、六一一

支那遍歷

西湖の春 (三) 中島生

俄か造りの湖畔詩人を乘せたる輕舟は、湖水の上を水音輕く、悠々として泛び歩き候。湖上には三々五々の遊覽船も、何れも容を裝せて行き交ふ。或は一人にして風流を占むるあり、或は佳人を携へて杯を擧ぐるあり、天下の春は正に西湖の上にあるかと思はれ申候。

湖心より眺望するに、三方は山岳重疊せり。天目の諸山は或は仙霞嶺、或は金鰲、或は玉龍、或は南屏山、或は呉山等、各々其容を整へ、翠色を螺らして影を湖水の鏡面に映ず。東方は開けて杭州の市街延びて湖岸に及べり。舟を南屏山下の岸に繋ぎて、帶桃花咲き亂れたる野徑を辿りて、雷峰塔に到る。塔は雷峯の上にあり。雷峯は峯と謂ふも、實は低丘に過ぎず。雷峰塔は、呉越王妃黄氏の建つる所にして、昔は高さ千尺、十三級ありし由なれども、今は僅かに五級を成すのみ。然かも其の巍然として聳え立てるの狀は、全く杭州の奇觀也。蘇峰先生曾て此地に遊ばれたる時、『五級の層塔、風に打たれ、雨に敲かれ、其の飄然の鬪け毀れたる儘に、雜樹、雜草を生じ、更に西湖に配合す可き、古色蒼然たる塔に候』と敍せられたる通りに候。

舟夫を促がして、再び湖心に漕ぎ出で、三潭印月、湖心亭等、湖中の小嶼を右に左に見て、孤山に志す。孤山は湖中最大の島にして、島と稱すれど、陸岸よりも到るを得べし。岸に達したる時は、日既に落ちて、四邊色蒼然たり。島中には平湖秋月亭、蘇文忠公祠、照膽臺、三賢祠、文瀾閣其他見るべきもの尠からざれども、時間なき故、林逋の墓にのみ詣じ候。林逋とは梅花の詩で有名なる林和靖の事也。彼れは生粹の杭州子にして、宋時此の西湖の畔に生れ、性恬淡、營利に慾らず、初めは江淮の間に放遊せしが後杭州に歸り廬を西湖の孤山に結んで、足二十年城市に及ばず悠々自適せり。而して其の死するや骨を此の孤山に埋む。彼れ此地に棲居せる時、手から梅三百本を植ゑたるが、多くは風に枯れ去り、今日墓畔に林を成すものは、後人の補植する所に係る。彼れが『疎影横斜水清淺、暗香浮動月黄昏』の名句の人口に膾炙する限り、彼れが墓畔の梅花は其馥郁たる薫香を湖上に漂はすなる。彼れは幸福の詩人と謂ふべき也。小生到りし時、梅花なほ枝頭に殘り、餘香掬すべきものありき。湖上に在れば、何時までも飽くことを知らざれど、日暮れたれば、一先づ旅館に歸る。

◎府管内滯納處分 京城府

昨年度國税其他に對する督促狀發布數並に滯納者處分數は驚くべき計數を示せるが今其の内容を聞くに督促狀發布數國税二萬一千九百六十七通(四年度二萬二千三百三十八)府税五萬二千九百七十八通(四年度四萬八千八十八)學校組合費二萬五千六百四十一通(四年度二萬九千五百七十六)滯納處分員數國税差押一萬二千三百八十二件、地方費賦課金差押三十件、府税差押一萬六千四百二十五件、學校組合費差押六千六百一件にして之を前年度に比すれば著しき增加を示せり之れ一面四年度に於ては納期限經過後二、三箇月を經て督促狀を發し本人に保管を命ぜられたる差押動産引上に際しても尚ほ二三箇月の猶豫期間を與へ居りしに反し五年度に於ては納期經過後一箇月內外にして督促狀を發し差押動産の引上期も幾分短縮せし結果に基因すと雖も斯くの如く多數の滯納者を出す事全國に殆んど其の比を見ざる處に

◎忠南蠶種配布數 大田府

忠南に於ける蠶種製造の概況は既報の通りなるが本年春蠶種の内忠南各郡に配布したる總數は五千四百九十一枚にして何れも二十二日氷藏庫より取り出し其々配布を終了したり蠶種は又昔、小石丸、青熟の三種にして之を郡別に擧ぐれば大田八百四十三枚、論山千百枚、扶餘千七十枚、舒川六百枚、瑞山三千三百十一枚、牙山二百六十六枚、天安三百四十一枚なり因みに忠南地方の春蠶掃立期は五月十日前後なるべしと(大田)

◎京畿 夏期講習會

京畿道にては今夏管内普通學校長普通學校鮮人教員並に私立學校教員夏期講習會を開催する事に決定せるが其の講習科目日時會場其他左の如し

▲京畿普通學校長講習會 講習科目及び時數、朝鮮語四十二時間理科實驗二十八時間 ▲期間八月十四日より同月二十七日に至る十四日間 ▲會員各公立普通學校長 ▲會員心得イ、會員は講習開始前に豫め朝鮮語及び漢文讀本卷三迄を自ら履修して出席すること ロ、會員は農業理科教科書理化の部第三四編中實驗觀察の質疑事項を取纏め七月十五日迄に道廳に提出の事 ▲會場京城府高等普通學校

▲同普通學校鮮人教員講習會 ▲講習科目及び時數、國語教材の研究三十五時間算術教授法三十五時間 ▲期間七月二十四日より八月六日に至る十四日間 ▲會員各公立普通學校朝鮮人教員一人宛 ▲會員心得會員は各校代表的出席にして其後に於ける國語算術兩教授上の質疑事項を取纏め六月十五日迄に道廳に提出の事

▲同私立學校教員講習會 ▲講習科目及時數國語三十時間算術三十時間私立學校關係法規十時間 ▲期間七月廿二日より八月四日に至る十四日間 ▲會員一、會員は國語にて聽講し得るものとす二、府尹郡守の推薦中に就き詮衡の上許可す ▲會場校洞公立普通學校 ▲講習證書成績查定の上講習證書を授與す

◎醫師試驗成績

二十日より擧行の醫術試驗受驗者は第一部二十八名第二部十八名にして二部試驗成績は二十八日發表す可しと

◎研究會講演

警務總監部研究會にては二十八日午後一時半より過般來歐洲より歸朝せる人見農務課長の出張を求め氏の歐洲視察談を聽講する筈なりと

◎西鮮日報祝賀會

西鮮日報社にては西鮮の門戸たる鎮南浦に第一聲を揚げてより來る五月十日を以て紙齡三千號に達するを以て同月六日同社自祝の意味にて各地有志一千名を同地三和花園に招待し一大祝宴を張る由なるが當日は平壤同地間に特別車を聯結往復割引にて運轉すべしと

◎東蠶社の擴張

朝鮮産蠶繭及び絲綿移出貿易並に製絲業諸機械桑苗等の移入を爲しつゝありし東蠶社は從來大田に本社を置きたるが今回朝鮮蠶業の發展と共に大活躍を試みる計畫にて本社を京城漢江通に移し繭大乾燥場を設立し本年度の新繭より大々的に買入れを爲すとの事なり

◎櫻井憲兵中佐の重病

忠清北道警察部長より久留米憲兵隊長に轉じたる憲兵中佐櫻井茂三郎氏は重病にて目下東京市四谷區鹽町三丁目四十三番地の自宅に加療中なりと

人事消息

▲金井清氏(鐵道局參事) 二十六日夜退京
▲飯島穎介氏(古川鑛山技師) 同上
▲花井卓藏氏(辯護士) ▲大井憲雄氏(同) 二十七日朝退京の筈

■南言北語■

今度の戰爭で軍艦や商船の擊沈せられた數は未だ正確に判らないが兎に角非常なものに違ひない▲若し之を悉く引揚ることが出來れば世界の富が夫れ丈け殖れるのみか世界第一の大成金になる事は請合▲併し其の引揚げは並大抵ではないから歐米の學者連中も大分頭を惱まして居る▲處が引揚げの新方法を發明したと云ふ學者が現はれた▲其は伯剌西爾のリオ、デ、ジャネイロのポルテラと云ふ博士である▲其の方法は母艦に空氣袋を載せ潛水夫に其れを持たせて海中にもぐらす▲潛水夫が沈沒船の内外各所に其を取りつけると母船から空氣を送る▲すると袋は次第に膨脹し水を排除して船體はジリ〳〵と浮き上ると云ふのだ▲潛水夫が達し得らるゝ處なら何の譯はないとはチト容易過ぎる樣なが▲兎に角博士は研究の結果出來るものだと發表して居る▲此奴は伊勢の潛水の砲彈探しよりは面白からうテ▲今度の選擧で全國の最高點者は滋賀縣の藤井善助君で六千三百十七票▲最も少ないのは沖繩北海道及び各獨を除くと鹿兒島縣の中村都輿君で千四百九十七票▲滋賀縣の島田保之助君は四千三百六十八票を得て落選して居るが▲鹿兒島縣の西村種昭君は僅に千七百七十票で最高點の當選者となつて居る▲富山縣郡部の石原正太郎君は僅票日當選確實だと通知を受けた▲事務所では大喜び早速石原君の胴上げをやつて居る處へ▲確報に接して見ると僅に二票の差で森江覺平君に破られた事が知れると▲運動員等は石原君を抱へたまゝベッタリ尻餅をついてオヤ〳〵とは大珍談

偶感山上口吟 阿部無佛
備盡翠色欲摩空。鐵壁連山指顧中。百戰不厭枯萬骨。猶留餘烈護關東。

謹告

二十六日通俗講演會開催の際は開會時間以前より會場は滿員立錐の餘地なく聽衆窓外に溢るゝの盛況を呈し從つて多數來駕の各位に對し餘儀なく入場を御斷りするに至れるご設備萬端不行屆にて十二分の滿足を提供する能はざりしは弊社の深く遺憾とし陳謝する處に候然るに場内は極めて秩序的に且つ靜肅にして講演會開催の趣意を達することを得たるは弊社の本懷とする處に有之茲に感謝の意を表する次第に御座候敬具

四月二十七日

京城日報社

夏物紺セル 洋服賣出
鐵道下拂品
一等 上下三組 三圓八十錢
二等 同 二圓八十錢
三等 同 一圓五十錢
右例 其他軍隊拂下品各種和洋古着類荷揃 年通り特別廉價販賣
和服洋服商 龍山元町二丁目 金子與市商店 電話百〇五番 振替京城三八一三番

公債株式 現物賣買
東京福島商會特約店
京城黄金町百五十三番地(鐘路大廣橋北河岸通)
加藤商店 電話二三八一番

▲各種萬年筆修繕▼ 京城日報代理部

舶來農具(米國製)
▲マニワホーク ▲ボテトホーク ▲レーク ▲草取ホー ▲ホーレーキ
其他各種新荷着

金物直輸入商 釘本藤次郎 本店京城本町二丁目 電話長四五〇・二七七四 振替京城一二五六番

京日案内
▲申込後中途解約中止の節は前金返戻せず ▲六回以上の御申込は特に割引 ▲御照會の節は返信料を必ず添付 ▲數字の番號記入を乞ふ

普通
當分半額 鍼灸按摩治療 本町一丁目 14
飯田水車製造所 電一三二六 狩野
顧客本位の新商行は地方も評判で便利がある 26
急募 寶藥行商人募集 身元證明書携帶至急本人來談 京城明治町二竹の早方阿波井 19
看護婦至急募集 希望者は本人履歷書郵送あれ 京城旭町二丁目八 瀬戸醫院 28
通勤社員入用 二十歳以上 履歷書寫眞郵送あれ 京城並木町二 保證 京城支部 30○
看護婦數名至急募集す 但免状有する者希望者は履歷書送れ 仁川仲町一丁目 看護婦會 31
融通 月收の御方へ極秘迅速簡易 立替御報伺又は御來談 京城大和町三の三二(柄澤前) 起木屋 27

番外
古本熱心高價買入 是非御試賣を乞ふ ▲御報參上 ▲本町二 ▲書肆群書堂 792
店員募集 十六七歲の日本人を求む同業希望者は至急來談あれ 京城本町二丁目 巖松堂書店 25
見習看護婦募集 希望者は履歷書携帶本人來談 京城本町一丁目 石川醫院 994
恩給年金立替 短期無保險 利子格安 即時取引 京城若草町一七 電話二三九一番 (金光教裏手) 國江商會 903
鑛物 各種 分拆 京城大平町二ノ二参三(電二八貳三) 松永分拆所 29

新荷著 懷中時計 スイツル製 アンクル機械

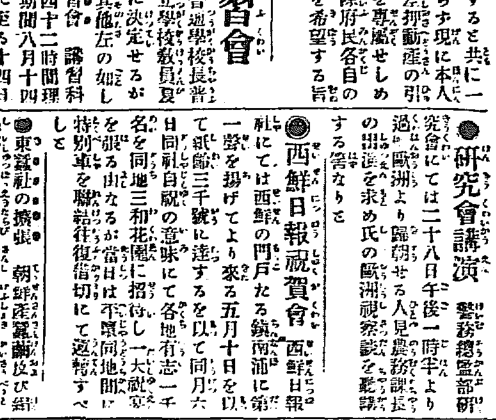
(ニッケル側)十八形 (片蓋) ... (以下價格表)

右は今回新著の商品にて本商會の最も御勸め申上る品に御座候

御依賴無き所の地方御注文に對しては代金引換にて御送付可申上候

時計、蓄音器、洋酒各國貨、ミシン機械、自轉車、直輸入商

本店 京城本町二丁目 電話九七二番 インゲレッソー商會

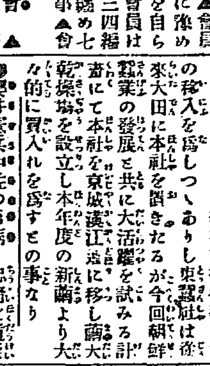


運動會觀花見
好い時候に好い酒
京城市大門通二丁目 電話四〇番 振替京城九〇一番
總發賣元大阪合名會社京城支店

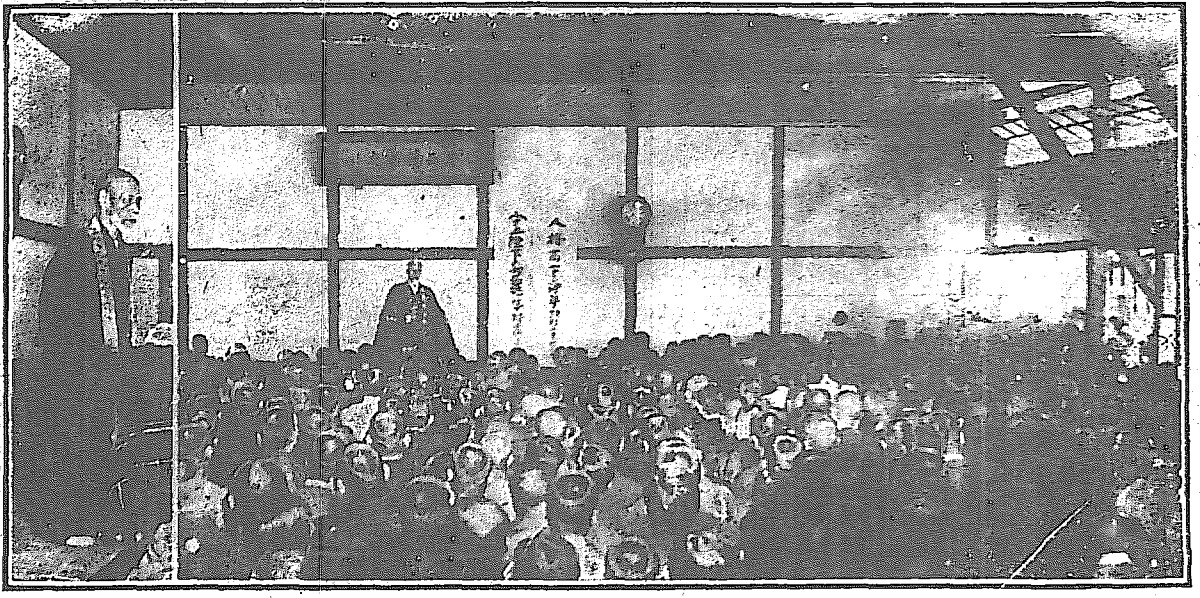
松丸太各種荷揃 龍山市場前(電話五二番) 竹村材木店

龜屋 電話二十七番 四七五

○朝鮮名産
金剛山
金剛飴
金剛糖
栗羊羹



……大田地方金融組合總會　去六日午前十時より同組合事務所附近に於て開會決算報……を喚起し稍々活氣を呈しつゝあり其の資本の主なる需用は耕牛購買費に使用するものにして金肥購入費等に……
……適を二十四日より開始二十七日終了
▲地價大暴騰　大正二年の頃坪八十錢乃至一圓を唱へた……呈せり▲人口激增　客月末戶數現在は七百四十戶人口總計二千五百四十八人內地人戶數三〇五戶人口男五……二十四人なり之を大正二年の戶數內地人十八戶鮮人四十五戶人口內鮮人合計八百五十八に比較するときは頗……高等小學科を設置すべく此程學校組合は京畿道廳へ對し設立認可申請書を提出せり▲大誠丸出港……メダル附懷中時計一個を……之を一圓五十錢に入質せ……



南條村上兩博士の講演（左、村上博士）
＝高等女學校に於ける本社主催通俗講演會＝

●盛んなりし通俗講演會
吾社主催通俗講演會
兩博士の熱辯惻々聽衆を動かす
二千の聽衆片唾を呑んで謹聽す

本社主催通俗講演會は豫告の通り二十六日午後四時三十分南山町高等女學校で開かれ學校の授業終了后椅子卓子を用意する暇もあらせず一般聽衆は南條村上兩博士の熱辯聽かんずものと三時半前後より續々と詰め寄せて來る、會場內には豫め來賓席、婦人席一般聽衆席と貼紙して

○此日の混雜を防ぐ

べく用意されてある、斯くて定刻に迫るや講[illegible]餘地もなく場の內外に充ち滿[illegible]紳士紳商學生婦人の面々無慮[illegible]講演今や遲しと演壇を見上げ見渡す定刻の四時半に至り本社員開會を宣するや滿堂の聽衆ぜつとばかりに拍手する其の景況は

先づ南條博士の登壇『今上陛下御盛德に就て』の演題と共に次第々々に緊張して來る——南條博士は

○今上陛下の皇太子

に渡らせられ未だ御幼年に在せらるゝ時代より如何に御仁德に富ませ給ひしか如何に御勵精御勤勉に渡らせ給ひしか先帝並に皇太后兩陛下に對し奉り如何に御孝心厚かりしか將又下賤民に對し老者に對し御學友に對し如何に御慈悲心深かりしかを一々申すも畏き御實例に徵し奉り條を分ち項を追ふて熱心に諄々乎として說き吾等臣民は須く陛下の垂れたまへる孟子の所謂明言敏

○實踐躬行の美德の

範に遵ひ奉り修養以つて體得す可きを痛說した聽衆の中には　陛下の御事共承はるだに只管御盛德御仁德の洪大なるに感涙を催うす者も少くなかつた次に村上博士登壇『人格高下の標準』と題し吾人の人格は財産身體、榮譽學識其他の有無大小には何等交渉を有たぬ、全く吾人品格上下の決する所以は其人の犧牲的精神の有無に在り犧牲は天禀にして

○道德的なるを最上

とすべく吾人の人格高下の標準は一に此の道德的職務的日常的犧牲の分量如何に由るべしと斷じ其の間古往今來英雄豪傑を拉し來り拉し去りて餘す所なく諧謔百出聽く者をして倦ざらしめ悟らしむる所博士の雄辯と共に大喝采を博しさしもの講堂爲めに搖がん許りであつたが、て午後六時半博士の講演も終んで一同歸路に着く、二千の聽衆些の混雜もなく全く退散したのは七時頃であつたが當日の本社主催の通俗講演會は斯くて大成功を以て終りを告げた

●天冠を戴き蓮華驂して
緋の袈裟に淺綠の肩衣—美しい稚兒衆
法主導師を勤めて庭儀式

尊き御法の聲を聽くべく集まつた、善男善女で埋められた本願寺の境內に麗らかな春の日が輝いて微風だもないそれにもいやちこな佛德を思はせる好晴の廿六日宗祖大師遠忌

◆法要の最大禮で

あた庭儀式は法主此れが導師を勤めて歸敬式の終つた午後二時三十分から南山東本願寺に行はれた、樂人の奏する樂の音が緩るく響き渡ると思ふ間に庭儀の行列は別院信徒世話方を先頭に肅々として玄關正面から繰り出された、その行列を見れば參勤僧侶、隨行長の南條博士、そのあとには

◆燃ゆるやうな緋

の振袖に淺綠の肩衣、いたいけな顏に紛紅やさしう刷いて、頭には牡丹の挿花をした金色燦然たる天冠を戴き、枝の長い蓮花の持花を手にした見からに美しく愛らしい男女の稚兒達つゞき更に僧二名先驅を勤めて

◆靜々と進むに連

れて綠色の布衣に冠を戴いた隨伴の信徒總代三好和三郎、森勝次郎氏が高らかに差しかける朱傘の裡には導師たる法主が、紫の附裳に色鮮かな緋の衣地に牡丹崩しを白く染ぬいた五條袈裟をはいて木履の音輕く威容儼然

◆悠々として白布

の上を進み、次いで數衣箱、香爐箱隨がうあとに更に又稚兒三十人あまりつゞき奏樂につれて練り行くさまは雄麗限の趣きがあつた、行列が境內の半ばを巡つて本堂に入り小憩の上再び本堂に出で諸偈の總禮終れば樂人の奏する

◆登高座樂と共に

登高座に就き讀經終れば今度は下座樂の奏樂中に下座し願上偈、念佛讚、回向總禮を一同の恭しく行ふ退出樂によつて退出し之れで式は終り法主は時車で旅館なる朝鮮ホテルへ歸られたが稚兒衆五十餘名は法主に隨がつて

◆本町通りを練り

歩きつゝ朝鮮ホテルの門前までお供したが途中には之れを觀んとて道路の兩側に人垣を作り、犇めき合ひ踊る騒ぎだつた、猶ほまた此の日は參詣人特に多く總督府から宇佐美內務局長、國分の兩長官、關屋學務局長、荻田總務局長、金谷府尹等も來賓として庭儀に參列した

♣稚兒の行列　＝南山本願寺遠忌の庭儀式＝

●今度の日曜が見頃
・牛耳洞の櫻花

牛耳洞加五里の櫻は昨今の摸樣によれば來る二十九日の日曜日頃最も見頃にして倉洞驛よりの道路は先頃修繕せられ距離も僅かに三十町位なれば婦人子供の徒歩も易なるべく郊外散步を兼ね家族連にて一日の清遊を試むるも亦興味多かるべし、鐵道局にては當日倉洞驛に特に驛員を派して驛前には天幕張の休憩所を設け、又牛耳洞には救護班を派遣する外、觀櫻客の便利を圖る爲め當日運轉の臨時列車（三等客車）は龍山發午前八時四十三分の發車なるも九時三十分には元山行の普通列車（二、三等客車）あるを以て之に依るも可なるべし、割引切符は混雜を避くる爲め既に二十五日より大門龍山兩驛に於て發賣を開始し來月六日迄引續き發賣するを以て前以て買求め置く方便利なるべし

●開城の桃
も今度の日曜頃

桃花の名所として聞えたる開城は、春を破りて來る日曜頃には桃花と共に開城を

♣花の都と化

せしめんとしつゝあり、舊都の古跡を尋ねつゝ三春の行樂を恣まゝにせんとする雅客は來る土曜日曜を花の開城に送るもまた一興なるべし行路の兩側には新柳風に揃ひて遊客の來訪を待ちつゝあり

♣開城保勝會

は斯かる遊客の爲めに相當の便宜を計るべく其勞を厭はざるべく團體の遊客に對しては案內人を附する手筈なり（開城特信）

◆招魂祭と國旗揭揚

京城府の主催に係る招魂祭は例年の通り四月三十日午前十一時倭城臺公園に於て莊嚴なる祭典を執行し重立ちたる官民多數の參拜者あるが一般の參拜を希望する由にて當日は晴雨に拘らず執行すと衝二十六日朝刊に京城神社の主催とせしは誤りにつき訂正す

●又も山火事

京畿道長湍郡津西面及び小南面の接壤なる景陵里華藏寺の南方山中より二十一日午後三時頃發火し里民百三十名出動して消防したるも華藏寺所有及び民有地に植込みの二十年以上のものの松の立樹百五十本五年以上のもの千餘本面積十六町步を燒き盡して同夜十二時頃鎭火せり原因は蕨取りの煙草の落火ならんと

●三坂通の晝火事

二十六日午後三時二十五分頃龍山三坂通り二百五十番地農業松下五一方より出火し瞬く間に同棟の家具屋醫谷收次郎菓子商中根嘉一鮮人米商權某後方を燒失し更に隣接せる藥貸温突建の鮮人一棟を燒き拂ひ同四時頃鎭火せり出火と同時に新舊龍山消防組南大門德壽宮の各常備消防隊出動し又龍山分隊の憲兵出張して警戒に任じたるが異常の間のことゝて一時は却々の混雜を呈したり原因は前記松下の妻が焚火を爲し居るや其の火が傍のアンペラに移り更に松葉に燃え移りしものなり損害は二千三百圓也と

●鍾路の大夜市　來る五月一日より開始

鍾路大夜市は昨年の如く來る五月一日より開始する豫定なる由なれば一般出店希望者は同夜市事務所に向け至急申込むべしと

●公金紛失事件上告審の辯論期日

大邱覆審法院の第二審に於て敗訴となりたる遞信局の大野峰次郎に對する遞送公金紛失損害賠償係争事件は上告人として安住辯護士を上告代理人として高等法院に上告し四月六日安住辯護士より上告理由を陳述する所ありしが受理となりたる爲め來る五月十八日膳裁判長の係りにて上告人大野を呼び出し口頭辯論を開く筈

●二人組の曲者

京畿道加平郡南面梨花洞生れの金善一（三二）は金桂寬（三〇）と共謀して四月四日京城南大門通り五丁目京僧商店にて十五圓餘の金品を窃取し尙外二箇所にて同樣二十圓許りの泥棒を働き兩名本町署に檢擧され裁判所に送らる

◎漁船に忍び入る

廣島縣安藝郡草津村生れ當時住所不定山本太吉（三一）は十九日午後八時頃釜山牧の島岸壁に繫留せる同地濱詰捨松の所有漁船內に忍び入り船內の米一斗を窃取し白袋に入れ擔ぎ出でしを太吉の雇人たる金甲佐市（三一）に發見せられて同所の巡査派出所に突出され釜山署に留置取調中なりと

●植松子爵母堂

京都植松子爵母堂はかねて病臥療養中の處二十四日終に逝去したり行年六十四歲葬儀は二十七日佛式にて執行さるべし（大阪特電）

●玉葉展覽會　作品二十六點

閨秀畫家栗原玉葉女史作品展覽會は愈々二十七八九の三日間每日午前八時より午後六時まで南山町一丁目京城ホテルの大食堂に於て開會の事となれり今回出陳の作品は千代紙以下三十六點に過ぎず、而して朝鮮內地の作品は皆無なるが、近に閨秀畫家として池田蕉園、河崎蘭香兩女史と共に斯界の三明星と謳はれる丈けありて艷麗なる筆致と優美の情調觀るものをして恍惚たらしめざるは無く、殊に好むで濃艷華麗なる色彩を用ひ作ら畫面にしつくりとした落ち付きを見せる處は僅かに女史獨得の妙技にして他人の企及を許さゞる處なり。作品中二十六番の春の宵、二十番の草双紙、二十五番の芝居のお三輪、三十一番の紅葉狩などは非常の傑作なるを以て開會中は定めて雜踏する事なるべし

●乘馬會員の遠乘

京城乘馬俱樂部員は來る二十九日午前九時黃金町俱樂部に集合し牛耳洞の觀櫻遠乘を試むる筈なり

●背水畫會開催

京城の洋畫家本城背水氏は二十八日より四日間本町三越樓上に於て畫會を開く筈なるが二十八日は會員にのみ觀覽を許し二十九日より三日間は一般公衆の縱覽に供すべく陳列の作品は約七十點にして中には最近內地旅行中の寫生も少なからずと

●釜山の猩紅熱

釜山草梁鐵道官舍松本伊太郞長女くに（八ツ）は二十一日猩紅熱に罹り直ちに道病院に入院治療中なりしに二十四日遂に死亡したり釜山に於て該病發生は本年の初發者なりと（釜山）

●喜佐方丸遭難船員歸著

喜佐方丸の遭難船員第二回目の歸航者は二十六日神戶に歸著せり（大阪特電）

櫻花の名所、柳の名所として世には[illegible]ところべく數年來市民が經營したる結果停車場前の遊園公園、彩霞洞を始めとし到る所の丘陵溪瀨に移植したる種々の櫻花はこゝ一兩日前より米

內科 小兒科　入院應需
京城府南山元町　熊野醫院　電話二〇四番

愛山山路彌吉著　支那論　（定價六十錢）郵稅六錢　四六版全一冊三百三十頁

世界人口の四半を有する大國支那の現狀は今如何ぞや。一亂治まりて一亂又生じ、內政の紛糾、外交の危殆、實に名狀すべからざるものあり。支那研究の盛なる又故ありと謂ふ可也。然も本書は、著者最新の一大著作にして、支那の國家及び民人を歷史的に觀察し、過去現在及び將來に關する日支關係論あり支那人の國家的觀念及び漢民族の特性並に優劣論あり、更に阿片戰爭以來各種國際的大問題の史的評論あり『清末革命の異動及び帝國主義世界政策等に關する政治的評論あり。所論悉く正鵠的確、文章亦活達流暢にして、現代支那に關する研究又は評論中實に最も權威の著作なり。別に『代議政體と支那』『興亞策論』を附し、卷首には『興亞元治策』、卷末には阿片戰爭以後の詳細なる年表を添ふ。今や支那の內治外交愈々多事ならんとす、敢て一言吾家が帝國の使命、我が國民の責務亦重大なりと云ふべし。一讀を江湖の諸賢に薦む。
發行所　東京京橋區日吉町　振替東京一三一〇〇番　民友社
發賣所　京城大平通一丁目　振替京城三一〇〇番　京城日報社代理部

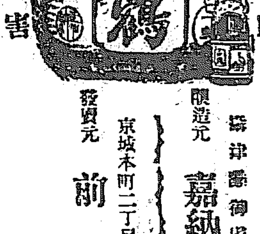
京城本町　鑛山用測量器械　シンサキ

京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）　電話一八番　二六〇〇番
酒井婦人病院　入院隨意　院長　酒井一郞

KINOMEAL　完全哺育料　母乳代用品　キノミール　（說明書進呈）
小兒の生後一ヶ年間はキノミールと水とで育てるのが一番安全で一番簡單で一番健全な發育を見る

キノミールは最近探明せられたる科學の原理と實驗的哺育の成績を基礎とし小兒成長上必要なる各分子を完全に結合せしめたる營養品にして取扱最も簡便にして全く理想的の育兒品として凡て小兒科諸家の賞讚を受けたり
發賣元　和光堂　本店　東京神田錦町一丁目　支店　大阪東區橫堀二丁目

開業　各種自轉車並附屬品一式　販賣及修繕確實　諸官衙御用
京城長谷川町（朝鮮銀行橫）　中西自轉車店

大日本優等清酒　ハクツル

品質純良　衛生無害
釀造元　攝津國御影町　嘉納合名會社
發賣元　京城本町二丁目廿番地　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五番

眼科專門　京城本町四丁目カルス温泉橫（電一五五六）
金井眼科醫院　日曜祭日午時中　金井豐七

怒濤の月(百四十七)

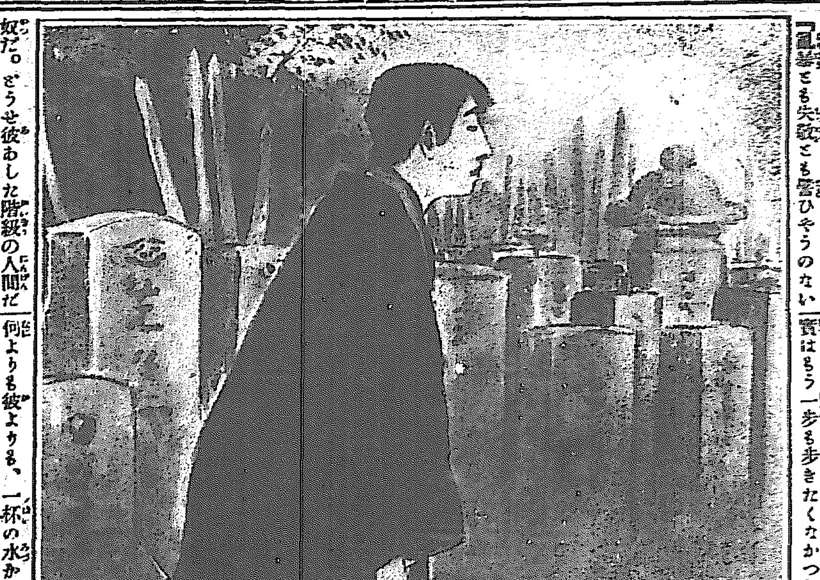
小林蹴月作 武内桂舟畫

熱き氷(二十九)の一

崖下へ蹴落された幸三郎の靜雪は自身の驚いた割合に、身内の怪我はなかつた。恰度誂へたやうに墓地つゞきの藪蔭み一ふわりと護謨毬の如く轉げて横はつたのである。それでも暫時は、起きも得上らずに闇の空氣を呼吸しながら、四邊の容子を見定めた後、徐かに藪を掻き分けて、這ふやうに卵塔場の方へと進んだ。幽かながらも庫裏の縁先から射す燈火の影を慕つたのである。

『畜生ッ』とも失敗とも詈ひやうのない憤に、身も摘まるゝやうな眞暗黒である。彼は、覺ねず墓石と墓石の間に立ち止つて、苦痛さの餘りに呻きの聲を發した。

男爵の屋敷へ立ち還るのには、云ふまでもなく、庫裏の横手から本堂の前側へ迂はつて、それから境内の石段を迎つて、表門から坂の石ころ道を上つて、四五丁も歩んでからでなければ、男爵邸の表門までは達しないのである。幸三郎は、勿論それ位の事を承知して居るのであつたが、實はもう一歩も歩きたくなかつた。



奴だ。どうせ彼あした階級の人間だから、人格だの品性だのと云ふものゝあるべき筈はないが、併し、向不見極つた奴である。察する所、彼奴が袖子さんに横戀慕を爲る處へ、僕が何事をも知らず、今日花見臺の上で、さま〴〵の話を爲とつた爲めに、一も二もなく不正な關係でもあるものと斷定して了ひをつたのであらうが、實に下等な動物ほど手におへぬものはありや爲ない。』

幸三郎は、獨りで呟いて、獨りで怒つた。可なり長時間の格鬪と、崖下へ墜落した激動の結果として、遽かに極端に疲勞を覺えて來た。同時に咽喉の渇きと心臟の鼓動とが、殆んど歩行にも堪へがたきまで苦痛を感じた。墓地内にある阿伽桶の水でもあつたら、是非一口飲んで見たいと思つたが、如何せん、不案内の上何よりも彼よりも、一杯の水か白湯かゞ彼に取つての最大急務であつた。

『あゝ、水が欲しい。どんな泥水でも關はないんだがな。』

木の間から見ゆる眠つたやうな星影を仰いで、彼は怨めしさうに叫んだ。そして又、聞く人の有や無しやを考ふるべき暇もなくして、苦しさうな呻きをつゞけた。

ばさ〳〵と背後から竹藪のそよぐ音が蹴れた。それが宛然塚本の奴がまだ自分を苛め足らないで、暴力を振ひにでも追跡て來たかのやうにも思へた。

幸三郎は、到底彼の腕力には及ばない事を悟つた。彼の云ふ野獸の如き奴を對手にする丈が愚の至りであると思つた。若し彼奴が來たらば潔く身の勇を皷して逃げるのが第一の手であると會得しながら、何うにか斯うにか、疲れた踵を引摺り引摺りして、ぼんやりと淡い灯影のゆらめいて居る庫裏の縁先近くまで差寄つて來たのである。

不圖、太息を吐いて、面を振上げて見ると、障子にちらりと女の影らしい物が映つた。彼は、只何となくそれを應擧の描いた髭粉のお化けのやうに思つた。女の影は、鬢の毛をばら〳〵に亂して、小さな机にでも凭れて思案に暮れて居るかのやうである。卵塔場に面した寺の庫裏内に、女の影！—幸三郎は、遽かに面を掠むる夜風までが腥いやうな氣がして、襟許が薄氣味わるくなつて來たのである。

京城黄金町二ノ一四八 電話一一 産婆 榎田習代

けれども、それに就いて、不圖思ひ浮べた事がある。先刻花見臺の上で袖子から何や彼やと話しかけられた語の中に『御前は坂下の淨玄寺内に若い美しい女を匿つてお置きになるので、自然妾を夫人の位地に直しては下さらないのであらう』と云ふやうな事があつたが、坂下の淨玄寺と云へば、卽ち此の寺より他にはないのである。ひよツとか爲たらば、其處に映つて居る女の影がそれではあるまいか知ら……？幸三郎は、然う思ひ直して見たりして、尚三四分間は熟とその影を凝視めた。

西洋料理、電氣すき燒、ハイカラ丼 おいしい事京城第一との高評を博し居り候 南大門通 電話二五七一番 カフエータイガー

と、思ひがけなくも、障子はさらりと内から開かれて、影の主なる若い白い女の顏が、幸三郎の眼前へ浮き彫のやうに判明と露はれたのである。

『ヤツ、お前は絹さんのやうだね。』

斯う叫んだ時の幸三郎の聲は、唇から出たのか、頭から出たのか、眞個區別の付かないまでに突發的で、而も驚愕の極點であつた。

それはまだしもの事、女も亦、幸三郎の泥塗れなる疲れきつた姿を、一目内からの灯影で認むると同時に無論眞の人間とは思ひ及ばなかつたのであらう。魔に攫まれた人のやうにキャッと消魂しい悲鳴を發して、

『助けて―』と言ひざま机に突ツ俯して了つた。

□虚か眞か 死んだ娘が蘇生

傳説のやうな奇談 支那浙江省蕭山縣は湖山の後に大石背といふ村がある。其村の百姓蕭亞祐の一人娘に名を阿於さんといふ別嬪があつたが去る二月中天然痘に罹つたのが因で、惜や十五の蕾の花、敢なく散つて了つたので悲歎に暮れた兩親の樣子、他の見る目もイヂらしかつたが、拔け出した魂は招び戻す譯にも行かず型の如く棺桶に收めて一日二夜通夜した後に豫て

◇墓地 と定めた山間の某所へ舁ぎ込んだ、然るに怎うした事か棺桶の中からオーイ〳〵と呼び聲居合す人々目を見合せ恐る〳〵棺桶の蓋開けて見ると死んだと思つた阿於さんはキヨトキヨト四邊を見廻し『おや、どうして俺は此處にゐるのだ』と立上がつて自分の胸を撫り、頭を撫り『失敗つた、失敗つた』と怒鳴つた。そこで

◇父親 は娘に向ひ『お前は生復つたのぢやないか、何でそんなに失敗つたといふのだ』と問ひ糺す娘は『我こそは廣西の軍人馬剛といふ者であるぞよ、國の爲に身を棄てたが今蘇生つて見ると女の身體、折角だがこれぢやお役に立たねわ』といつて四日間臥床に入つたまゝ食事もせぬ。四日目に腹が餓つたと言つたので父親は喜んで食事を進める

◇食事 が濟んで後阿於は腹の下を撫で『ウンこれで俺も大丈夫だ』と獨り言を言つてゐたそれから娘の擧動は常の通りであつたが只女のやる仕事はスッカリ忘れてゐた。而して阿於と呼ぶと怒り馬剛と呼ぶと返事をする。母親は常に娘を阿於と呼び慣されてゐるので『阿於さんや一寸水を汲んでお呉れ』と命告けると阿於は憤然として『お母さん俺はモウ女ぢやアないヨ』と袴の紐を解いて見せたら驚くべし、巨然たる偉丈夫であつたとやら

□前田四谷送別會

京城に榮轉せらるべき前田四谷君の送別句會を其の出發前日なる四月十九日晋州倶樂部に開く席上君が在任八年間に於ける曾我談は[illegible]ろに感慨無量であつた運坐一圓竹窓長官(一作名梓)を始め各自句帖に對つて毫を揮つた廿の少壯英疇藤木南氏の論皿鉢の木は流石に一座をなして嚴蕭の氣分を漂はせ拾かし盃裁の木瓜花は紅燃ゆるが如く卓上の麥酒は盛んに泡を吐いて更に君の行を壯ならしむるの趣があつた

送別句

自動車のかすみに見えずなりにけり 梓木
南江の柳芽立つや別れ舟 多翠
花見つゝ都の雲に友去りぬ 英木
八年の櫻都に移しけり 藤木
延びあかり花に姿の見おくりて 甲木
君去つて滿山の花色褪せぬ 無俳
榮轉を待つ漢城や花緑 淺南
鶯や高嶺に去りて谷淋し 白木
柳道に長蛇の如き送り人 描木
龍昇り風漢城に光る哉 、木
送る日の矗石樓や花曇 雨木
雲一路櫻かざして人遠し 其痴

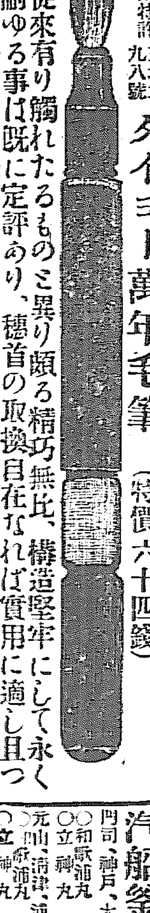
留別

握る手に花びら落ちて二ツ三ツ 四谷

新刊紹介

▲帝國農會報(四月號) 十二錢東京赤坂溜池一其會
▲會計(創刊號) 二十五錢東京神田駿河臺明治大學出版部
▲文章倶樂部(女流文志號) 特價二十錢東京牛込矢來町中の丸新潮社
▲隨鷗集(四月號) 二十五錢東京府千駄ヶ谷町五二四其吟社
▲正則中學講義錄(四學期の五) 會費五十錢東京神田駿河臺袋町大日本國民中學會

新案特許三六二九八號 タイヨー萬年毛筆 (特價六十四錢)



本品が從來有り觸れたるものと異り頗る精巧無比、構造堅牢にして永く使用に耐ゆる事は既に定評あり、穗首の取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尚普通の毛筆より高尚優美にして一度墨汁(開明墨)を入るれば端書三百枚迄は書き得るを以て携帶用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

▲替穗壹個金八錢 ▲スクリツプ壹個金五錢

△團體若しくは合同にて一打以上御求の方は特に割引の御需に應ず

●發賣所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 合資會社 京城日報社代理部

ワヅカ一滴百日薫る百花の精の元素香水

今東京で大流行のゲンソ香水一丁先でも薫りで知れる元素香水つけた人とは一般の評判なり全國の藥店小間物化粧品店に販賣す近所に品切の時は直接本舗へ郵便切手代用御注文あれば送品す送料内地八錢海外廿錢 ゲンソ液元素香水本舗東京神田和泉橋際松本藥店

小瓶三十錢 中瓶六十錢 大瓶金一圓 [illegible]

御料 御園白粉

御園白粉の御化粧姿

御園白粉の御化粧姿は一目見ても直ぐ判ります。御園白粉は普通の白粉に比べて見ると分子が極めて細かいので、ノリとノビとのよい事申分なく、御年齢により、又季節によりまして誰方様にも濃くも薄くもお好みのまゝに至つて容易く美くしく附着きよく、其御化粧姿は御天性のやうに氣持が艶々としました。極く高尚な御化粧を化粧けた後では皮膚が爽やかに榮えが致しますから御座います。

本舗 御料御園白粉 伊東胡蝶園
發賣元 御料御園白粉 丸見屋商店

汽船釜山出帆廣告

門司、神戸、大阪行
○和歌浦丸 五月 七日後五時出帆
○立神丸 四月 日後五時出帆

元山、清津、浦鹽行
○[illegible]浦丸 五月十七日後十時出帆
○立神丸 五月 六日後四時出帆

元山、西湖、新浦、城津、清津行
○第三琴平丸 四月 日後六時出帆

門司、宇品、神戸、大阪行
○第三琴平丸 四月 日後六時出帆

佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天昇丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆

釜山港埋立新町 本町取扱店 大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行 會下山丸 四月三十日午後入港 五月一日正午出帆

阿波共同汽船株式會社 本町四丁目(電話一七三番) 仁川代理店 野口商會
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

大阪商船仁川出帆

○外航[illegible]船の時は五分引を以て通路切符發賣仕候

◎群山、木浦、釜山、門司、神阪行
×山頭丸 四月廿八日
×[illegible]丸 五月五日 後五時出帆

◎門司、神戸、大阪行
×汕頭丸 五月十三日後二時出帆

◎釜山、横濱行
×漳州丸 五月三日後二時出帆

◎木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行
×安東丸 五月二日
×安東丸 五月二十一日 後二時出帆

◎鎭南浦行
△蘇州丸 四月廿九日
×[illegible]丸 五月十日 後二時出帆

◎南浦、群山、神戸、大阪行
須磨丸 四月 日後二時出帆

◎鎭南浦、大連行
×安東丸 四月廿七日
×安東丸 五月十五日 後二時出帆

◎大連直航
漢州丸 四月廿九日
×[illegible]州丸 月 日 正午出帆

◎西湖津、新浦、城津、清津行(元山出帆)
宮島丸 四月廿九日後十二時出帆

◎安平丸 五月十一日後十二時出帆

◎上海、基隆、打狗行(大連出帆)
湖北丸 四月 日前六時出帆
基隆丸 五月三日後四時出帆

御注意 切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話 京城支店

朝鮮郵船 出帆

鐵道會社及社外船と聯絡運送の便あり詳細は支店出張所、代理店及各取扱店に御問合せ相成度候

本社 電話長一九五二番二二三一番
京城南大門驛前 京城府各取次店 松原運送店(電話長一七〇番)

○江原丸 五月十三日
○京畿丸 五月四日
○黄海丸 五月八日
○咸鏡丸 四月廿九日
門司より釜山各港寄港浦潮航路 釜山發

○鏡城丸 四月廿九日
○昌平丸 四月 日
○鏡城丸 五月三日
元山より各港寄港清津行 元山發

○昌平丸 四月 日 元山發
○[illegible]丸 四月廿八日 釜山發
○江陵丸 毎日 釜山發
○益陽丸 浦項發
○三河丸 四月三十日 釜山發
○海州丸 ○玉浦丸 毎日 釜山發
○新鶴丸 ○慶貴丸
○平壤丸 五月 四日 元山發
○順天丸 三日 木浦發
○慶興丸 四月 日 木浦發
○慶興丸 五月三日 木浦發
○公州丸 四月廿八日 木浦發
○[illegible]丸 ○智州丸 四月廿七日 仁川發
○宗信丸 五月一日 仁川發
○江原丸 四月 日 仁川發
○全州丸 ○南陽丸 毎日午前 仁川發

切符發賣所 仁川京城通り 電話七〇八番 電話二六一番